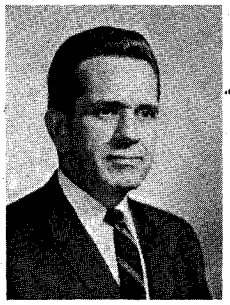
聖徒の道
1969年9月20日発行（毎月1回20日発行）
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

特　集

YWMIA百年祭，ブリガム・ヤング
とリトレンチメント協会の始り

聖徒の道

1969 9



心の糧

十二使徒評議員会補助
ボイド K. パッカー

少し前のこと，ある大新聞の宗教欄担当記者が総大会を訪れた。彼は大会の雰囲気を味わうためにやって来たのである。

開会の前に，私たちはタバナクルの廊下へ出ると，そこは人で一杯であった。彼は廊下の近くに座っている質素な服装をした中年の人に気がついて，話しかけた。その人はウエスト・コーストから来た改宗者であった。彼は副監督であり，以前，例の記者が所属する同じ教会の会員であった。

次のようなインタビューが行なわれた。

「教会の会員になってどのくらいになりますか。」

「約8年になります。」

「宣教師に出会ってすぐに教会に入りましたか。」

「いいえ，私が教会に入るまで数週間かかりました。」それからにっこり笑ってつけ加えた。「私は性急なのはきらいなのです。」

「教会の大管長は予言者であると言っていますが，本当ですか」と記者は尋ねた。

「ええ，そうです。聖典中の予言者と全く同じように，大管長は神の予言者です」

「あなたは教会の奉仕に対して報酬を受けていますか」

「ええ，もちろんです。金銭ではなく，祝福の形でたくさんいただいています。什分の一の原則は，受けた恵みのお返しとして，支払うことを求めているように思われます」

記者はそのインタビューに満足して去って行った。それからすぐに，別な質問を思いついてもどって来た。「でも，なぜ什分の一を払うのですか」

その善良な兄弟は非常にまじめな顔になり感動にあふれるまなざしで，静かに答えた。「従順です。」

——もく じ——

予言者のことば
これらのもの一体となるべし…… 大管長 デビド O. マッケイ……389
予言者の人となり…… マリオン D. ハンクス……390
YWMIA奉仕の百年…… 大管長会……393
YWMIA百年の歩み…… エリノア ノールズ……394
薬剤の賢明な使用…… J. ルイス シュリッカー博士……399
若人のページ
最良の人生 ……401
ほかならぬ あなたが…… エレーン キャノン……402
開拓者の女性達…… ケネス W. ゴッドフリー……403
今日の教会における女性の地位…… ベル S. スパッフォード……406
管理管督のページ
人の名前が意味するもの…… ジョン H. バンデンバーグ……408
日曜学校
レッスンの準備…… レックス D. パインガー……409
MIA
MIAへ行こう ……411
ローカル ……413
調子の波にのせる……リチャード L. エバンズ……裏表紙

子供のページ

長い夜……アイリス シンダーガード……85
サラダでつくった女の子……87
あたらしいおうち……ソルベーグ ポールソン ラッセル……87

今月の表紙

1869年11月28日日曜日の夕べ，ライオン・ハウスの応接間にてブリガム・ヤングが自分の娘たちをもって「リトレンチメント協会」を組織した。後にこの協会がYWMIAとなった。美しい油絵はデール・キルバーン画伯によるもので，ブリガム・ヤングが自分の娘たちにその協会の必要性を説いている場面である。（本文394ページ参照）

これらのもの一体となるべし

大管長　デビド O. マッケイ

聖典には次のように記されている。「……主にあっては，男なしには女はないし，女なしに男はない。」（Ⅰコリント 11：11）

男も女も，それぞれに定めた目標を超えることはめったにない。女の生活は，ひじょうに多くのよいもの，美しいものに満ちてはいるが，男の世界と女の世界を正確に区別することはできない。この二つは切り離すことのできないものだからである。一般に，男女は同じ関心，希望，抱負を持っており一方の成功または失敗は，他方の成功または失敗である。

男女はお互いの喜びを分かち合い，重荷を背負い，成功に向って共に働く。重ねて言うが，女の領域，男の領域などという区別は存在しないのである。ただ一つの領域だけがあって，その中でそれぞれが，望ましい行く末に達するために努力を重ねている。男女の領域は際限のないものである。

しかしながら，創造主が男と女を造られた時，体質，性質また活動の分野においても，性においても，はっきりと相違をおかれた。男が生来与えられたものにその生涯を捧げ，女が最も得意とするものに最善の努力をする時，人生における至上の美と最大の調和とが得られる。

人類にとっての最高の幸福と善とを自ら得ることのできる女性の領域から，もし強いられることがなければ，ぬけ出したいと願う女性が，今日の社会および経済状態に誘惑されていることは深く考えさせられる問題である。

女性は聡明で清らかなものでなければならない。女性は生命の泉であり，そこから人類の流れがあふれ出る。その流れをタバコ，有害な薬，胎児を害する病菌によってけがす女性は，その性に不忠実なものであり，人類の力と永続を妨げる敵である。

今日の世界に最も必要なものの一つは，聡明で誠実な母性である。人類の福祉と幸福に貢献する大切な諸徳を教えることを，家庭にこそ求めなければならない。

母性は人生の善にも悪にも，非常に大きな潜在的影響力を持っている。母親のイメージはおさな児のまだ書かれていないページに最初にしるされるものである。初めて安心感に目覚めるのは母親の愛撫であり，母親の接吻に初めて愛情を認識し，母親のあわれみとやさしさを知って世の中に確かに愛のあることを覚えるのである。

成長期の少年が父親を模範とし，英雄として，次第に芽ばえる望みのうちに男らしい特性を伸ばす時が来ることは確かであるが，外見的には母親のより温和な，やさしい特性を受けついでいくように思われる。

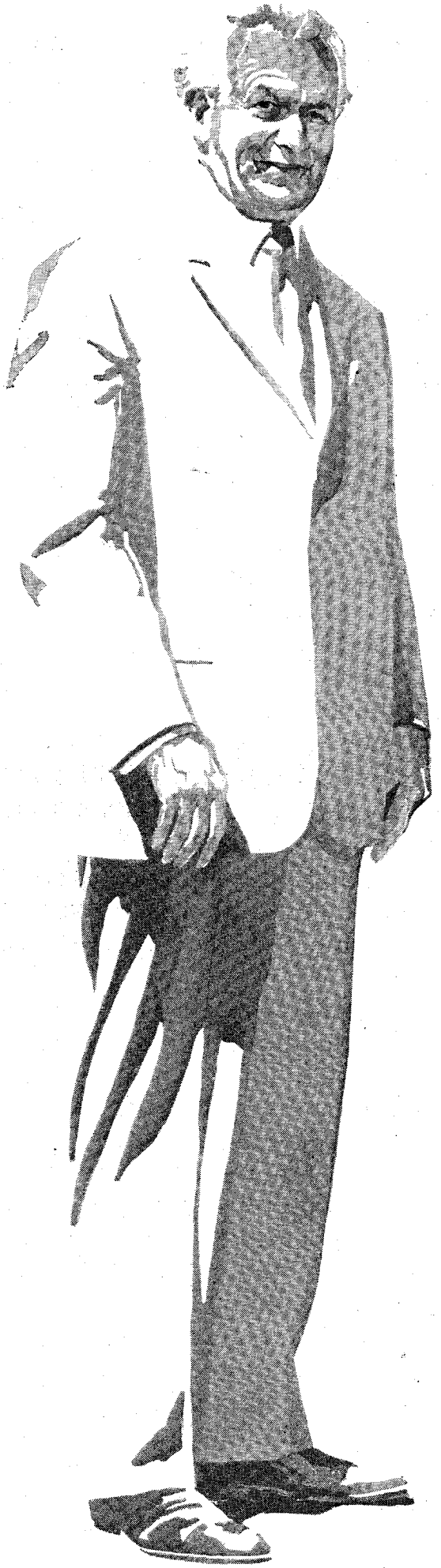
しかし，幼年期の最初の数年間に植えつけられた常に指示を与え，抑制する力が，あたかも花に芳香があるのと同じようにはっきりと，子供に残って，その思想と記憶の中に浸透している。

小さな赤児や幼児の生活を結び，型作っている影響力という小さな絆があって，それは青少年が習慣という鎖や綱によって拘束されるようになり始めるまで続くのである。

これら小さな絆を子供たちの生活に投げ入れる力は，家庭，遊び場，学校，学友，社会なのである。

世の法律も，神により啓示された言葉も一致して，清い束縛のない誕生だけでなく，信仰ある正しい生活をするよう子供たちを訓練する責任を，父母の上に課している。彼らは，「……その子供八才の時，悔改め，生ける神の子キリストの信仰，バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめ」るよう教えられており，教訓と模範においてこれをないがしろにするものに対して次のように言っている。「罪その両親の頭に留るべし」（教義と聖約 68：25）

人生とは，男と女が文字通り協力して行なう仕事であり，それぞれが主の戒めを守り，御意を行なうよう努力することが理想なのである。



予言者の人となり

マリオン D. ハンクス長老

十二使徒会補助

「偉大な人間とは，石の中に教訓を学び，水の流れに書を見い出し，万物に神の栄光を見る，たぐい稀な人である。はつらつとした人生の中で，彼はわれわれほとんどがのがす音を聞く耳と見る目を備えている」といわれています。デビド　O．マッケイ大管長についても，他の偉大な人々と同様に，あるいはそれ以上にそう言うことができるでしょう。

ビジョンの明瞭さ，知性の明敏さ，見識の広さ，知恵の深さにおいて，デビド　O．マッケイは，他の追従を許しません。詩人，哲学者，予言者も，彼の知力を越えることはありません。彼は，それらの人々の思想を時間と実際に労苦を費して記憶の中にとどめておられます。彼の鋭い知覚力，高貴な人格，寛大な心は，行為に現われ，精練され，ためされ，そうすることにより博識と愛が一体となった知恵を作り上げました。友人の次の言葉は，彼をよく物語っています。「私は人に与えました。与えて，与えて……そしてついにそれは私のものとなったのです」

マッケイ大管長は何を一番心にかけておられるのでしょうか。何を強調しておられるのでしょうか。彼が人々に教えたこと，導きと恵みを施す業にたずさわっている彼が人々に教えられたことを思い起こして下さい。私は，そのいくつかをあげてみたいと思います。

神とキリストに対する信仰……キリストのような人格……自己を捨てて愛に生きること……徳高い確信に満ちた生活，清廉で健全な生活……高貴な霊……鍛練された精神……美しいもの，精神を高揚させるものの修練……思慮深い交際とよい結婚，家族の一致，家族の祈り……神聖な家庭……女性，母親への尊敬の念……模範とすべき男らしさ……両親と継承物を敬う気持……いんぎん，立派な作法，気品……勤勉，献身的な奉仕……真の愛国心，祖国愛……全ての会員は宣教師であること……神の賜に関する教え。

何と見事にマッケイ大管長はその理想を適用し，発展させ生活の精神をその中に吹き込んだことでしょう。ただ言葉で述べるよりも，私自身の経験からこれらについてお話ししたいと思います。

ある朝，マッケイ大管長は神殿で，一般大会を準備するため断食と祈りをもって集った兄弟たち全員に対し，穏やかに兄弟たちを見まわした後，話をされました。非常に簡単な言葉でしたので，以前に，そのことを考えたことのある人がいるかも知れません。がしかし大管長が述べられたようなことを考えた人はいないと思います。私は，彼を見て，その言葉を聞いた時の心の高まりを忘れません（彼の言葉を，つたない私の口から言わなければならないでしょうか。しかし，私は彼の言葉を全部覚えているつもりです）彼はこう言われました。「今朝われわれは，主の指示を待つために体を清め，聖い衣をつけ，心を備え，霊をおだやかに保っています」

これは，すべての人にとって，日々の生活を送るためのよい模範ではないでしょうか。

彼の考察には誤りがありません。礼儀もそうです。最近私はマッケイ大管長の事務所で，彼と話す機会がありました。私が入っていった時，彼はいつものように，机の前に座っておられました。彼は，体が弱っていて，気分があまりすぐれないようでした。このような場合，他の人でしたら，訪問客にあいさつをするため，わざわざ体を起こそうなどと考えもしないでしょう。しかし私は歓迎のあいさつを述べるために，体を起こそうと懸命になっておられるマッケイ大管長を，押しとどめてあげなければなりませんでした。

この優しい彼の心づかいに触れて，私は涙を禁じえませんでした。

私はまた，他の日のことを思い出します。それは私がこの召しを受けたばかりのころで，私はその時，プライマリーの大会で，話を依頼されました。その日のために，時間をあけておくように計画して，開会の話を引き受けましたが，ちょうど同じ時間に，神殿で兄弟たちの大会前の集まりに出席するよう招待をうけたので，すっかり困ってしまいました。この会は，いつもよりは少し早く開かれることになっていました。婦人たちがこのことを知った時には，プログラムはすでにでき上がって，印刷されていましたので，彼女らはプログラムを変更することは困難だと考えました。

マッケイ大管長がわずかな時間席をはずしておられる間に，私は，数名の人々に尋ねたところ，彼らは一様に，プライマリーでの責任はあっても，神殿の集会に出席することが私の義務であると結論を下しました。そこで残念ながらも，私はそうするように準備しました。

マッケイ大管長が席に戻られた時に，私は折をみて，プライマリーと長老たちの集会に，同時に出席しなければならない状態を彼に話しました。彼は即座に答えて，依頼されたプライマリー大会に出席しなければならないと言われましたので，私はそのように決心して，その旨をプライマリー関係者に報告しました。

大会の当日，神殿でマッケイ大管長は最初に立ち上がって参加した兄弟全員に，私がプライマリーで責任が与えられていることを発表し，それから，皆が一緒になるという神聖な目的のために，私のような明らかに彼らの中では最も小さな存在の者でも会の全部に出席できるように取り計らって下さいました。そこで私はプライマリーの責任を無事果たすことが

できました。これは小さなことかも知れませんが，私にとってはそう思えませんでした。あのような状況のもとであれほどまでに思いやりと，優しさを持つことのできる人が他にいるかどうかを，疑問にも思い，ここに記す次第です。

面接といいますと，他の人々は質問か訊問のように思うかも知れません。正直な人なら，時々，問われた質問の意味や面接者の態度に憤然として，解け合えないよそよそしさを感じることがあります。

マッケイ大管長との面接で，すばらしいと思うことの一つは経験したことのある人なら誰でもわかるとおり，面接の間中，両の目と耳をもって，心からの関心をしめし全神経を集中されることです。私は大管長との重大な面接を決して忘れることができません。その内容の一つ一つを公然と挙げることは，適当だとは思いませんし，また今ここでそうするつもりもありませんが，彼の質問の本質というものを，そして人々に問われた，この人のスピリットを，ありのままに書き留めようと思います。それは，卒直で熱のこもった面接でした。私たちは，お互いに質問を交しました。彼は，私から聞こうとすることを，次のように質問されました。（彼の質問の本質に注意して下さい）

「あなたは，家族に対して，申し分なく忠実ですか？」「家庭外に何か不当な難儀，あるいはそれに類したことがありますか？」「あなたには何か解決できない問題がありますか？」このような恵み深く，おだやかな，礼儀正しい質問に憤りを覚えたり，偽った答えをする人がいるでしょうか。

ほかの二つの出来事では，神がこの偉大な人にお授けになられた全きと健全と霊感を，明らかに知ることができました。

私は，クリスマス直前にベトナムへ向けて出発する予定でした。私は，戦場で働いている教会の人々へのメッセージをもらうために，マッケイ大管長から簡単な面接を受けました。彼は，私の計画や，この派遣にかける期待についての話を熱心に聞かれ，私が思っていたよりも長い時間，共に話す機会がありました。彼は，私の旅行が，ちょうどクリスマスの休暇にかかるため，家族と離れて過ごさなければならない，ということを知っても，おもしろいことに，私に，何の憐みも同情も示されませんでした。彼が言ったことは，「旅行できるとは，君にとって，何とすばらしい特権だろう！」ということでした。

面接が済んだ時に，彼は大きな手をさし伸べて，私のひざに軽くおき，彼の召しの偉大さと高まいな人生をよく表わす話をされました。「私たちがここでかわすこの愛を，彼らに伝えて下さい」。彼は「私たちがここでかわすこの愛を彼らに伝えて下さい」と言われたのです。

彼が言われたのは，単なる愛の言葉ではなく，優しさと心の中に秘められた感情の美しさであり，私がそういう彼の思いを理解していたことを，彼は確かに知っていたはずです。人生とは，心の容積を広げ，交流，つまり愛をわかちあうことによって，お互いのきずなを強めていくことなのではないでしょうか。

労働省のあるすぐれた官吏は彼の妻と二人の娘を伴って，デビド　O．マッケイ大管長と面接する機会を得，私は幸いにも，彼らと同席することを許されましたが，その人はマッケイ大管長の人となりをよく言いあてました。それは，またとない経験でした。そこには，笑いとさわやかなユーモアがあり，気さくな会話が交され，時には非常にまじめな話もしながら30分余りの時間を過ごしました。

私たちみんなは，その面接を楽しく思いました。気取った態度や，よそよそしさ，あるいは，わざとらしさは全くなく，素朴で，暖かく，寛大な，霊感にあふれた親愛感が，あたりに満ちていました。部屋から出た時には，この指導者と彼の家族は涙を流していました。私は，国際的に有名なこの人の，興味深い言葉を聞きました。「私は，王や，統治者に会った経験があります。また多くの国で，多くの指導者にも会いました。しかしながら，あのような方に，会ったことはありません。今の世代に，あのような人間がうまれてくるだろうとは，私にはとても信じられません」

のちに，彼はこの声明を，市の大学教授の集りで繰り返し述べ，彼が会ってきた中で最も偉大な人間の近くに住んで，良い影響が受けられることの幸せを，彼らに語りました。

昔の予言者について多くのことが語られましたが，デビド O．マッケイに関しても，彼らと同じく，こう言うことができるでしょう。

「『彼』は主の道を歩み，主の命令を守り，義しい裁判をしたから……」（モーサヤ 29：43）

「かれらは『彼』を愛する情がいよいよ深くなり，誰よりも一番『彼』を敬った」（モーサヤ 29：40）

「『彼』はこのような信仰を有ち，心にこれを誇りとしていた。……善を行うこと，民を護ること，神の命令を守ること，また罪悪を防ぐことに誇りを感じていた。**私はまことにまことにはっきりと言う。もし過去の人，現在の人，将来の人がみな『彼』のような人であるならば，地獄の力でさえも永遠に挫かれ，悪魔はいつまでも世の人の心を支配することができぬであろう**」（アルマ 48：16～17）

YWMIA
奉仕の百年
1869—1969
大管長会

1869年11月28日の安息日の夕方，他の集会がすべて済んだのち，ブリガム・ヤング大管長は家族の女性たちを，ライオン・ハウス（彼の邸宅の名）のホールに集め，そこでリトレンチメント（質素・倹約を重んじる）協会を組織しました。これが現在のYWMIAの前身となりました。

さて，今百年祭を祝うに当たり，このようにYWMIAがたった一家庭の集会から始まり，現在では6つの大陸に，また海に散らばる多くの島の上に，そして教会のあるところ全域にわたり，何千もの協会が組織されるまでに発展したことは誠に感慨深いものです。この組織の霊的目的はその最初の集会で表明されたように，家庭の良き霊的影響力を拡大し，各個人の証を強め，保持することです。

教会員は時々統計とそれが示す力に驚かされます。このような統計は組織の団結力を示してくれますが，しかし大切なのは各個人なのです。どの人がどの人より大切であるということではありません。統計に報告される数字は，惜しみなく働き献身した各個人の総合した努力を示すのです。

教会の他の補助組織の指導者たちにも申し上げますが，YWMIAの役員・教師にも申し上げたい。あなた方の召しは常時遂行すべきものであって，一回レッスンをすれば次の週までしばらく休みというようなものではありません。一週7日間毎日続いているのですから，あなた方が教会の他の集会で，あるいはマーケットで，あるいはいかなる場所であれ，YWMIAの仲間や彼女らの家族の人たちに会う時にも，役員教師であることを忘れてはなりません。

若い女性の皆さん，あなた方のMIAの仕事は決して週に一回のクラスで終わるのではありません。MIAで教えられる素晴らしい教えをあなた方の生活にとり入れなさい。MIAで教えられている理想をとり入れて実践している若い女性を見分けるのは困難ではありません。彼女らはいかなる集会にあっても輝く燈台のようです。

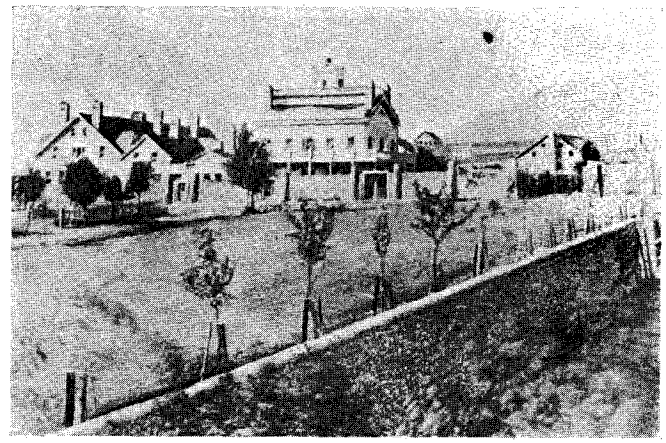
YWMIAも教会も，人生の好機と試練に対して不断の努力を払い，霊的にも身体的にも，精神的にも，美的にも完全な個人を完成するために組織されました。百年前に主がブリガム・ヤング大管長にお与えになった指示に，私たちは感謝いたします。この百年間ひき続き，主は指導者と会員を力づけ，また霊感を与えて下さいました。

MIAの若い女性の皆さん，神様はいつも皆さんのことを，また皆さんの希望と抱負を，心にかけて下さっています。神様はあなた方が正しい望みをもって努力し，成功することを希望しておられます。この世の生活は試しの時期であり，また前世の大会議で私たちが進んで受け入れた計画に従って，自由意志の大原則を行使し，信仰をもって歩む時期でもあります。その道は時には困難でしょう。しかし主はいつもあなた方の近くにおられ，あなた方の祈りをお聞きになり，最善の答えを与えて下さることでしょう。大まかに見て，あなた方の問題は初期のYWMIAの会員たち，またこれまで百年間の会員たちが直面してきた問題と余り変っておりません。

YWMIAに属するすべての会員，教師，役員と共に，私たちはこの百年祭をお祝い申し上げます。私たちはいつもあなた方のことを覚えてお祈りしております。私たちはまたあなた方を主の王国を地上に建設するために共に働く仲間として，心から歓迎いたします。

———・———・———・———

1968年3月19日　ブリガム・ヤング大学において，マッケイ大管長にエグゼンプラリー・マンフッド・アワード（模範的な男性に与えられる賞）が与えられた際のハンクス長老の話から。



YWMIA百年の歩み

インプルーブメント・エラ副編集長　エリノア・ノールズ

ドレス，お化粧の仕方，ヘヤー・スタイルなどの極端な流行を追っている今日の女性は，YWMIAの前身となった会が組織された当時もちょうど同じ状態であったことを知って驚くことでしょう。

あらゆる時代を通して，美を求め，流行を追うのは女性一特に10代20代の女性です。聖徒がソルト・レーク盆地に到着した初め頃，服装を控え目にすることは，家を建て，穀物を育て，町を造るといったことが緊急に必要であったと同じように，絶対に必要なことでした。生活が落ち着くと，美しい着物を求める女性本来の欲望が頭をもたげ始めました。そして身なりに注意を払うようになりました。

1869年は聖徒にとって記念すべき年でした。その年の5月に大陸横断鉄道が完成されたからです。このことは多くの点において大きな祝福でした。移住者は今や暑くてほこりっぽい平原を歩かなくとも，列車に乗って遠くから楽にやってくることができました。建設用材，農具，その他の商品も敏速にしかも安く輸送できました。

けれどもこうした便宜と共に，女性の流行熱がやってきました。女性たちが，スカートの後部をふくらましたりするための腰当てあるいはひだ飾り，刈上げ髪，その他いろいろな縁飾りなどについての流行の型をとり入れているのを見て，ブリガム・ヤング大管長は驚いてしまいました。何か対策をとらなければならない――それには彼の家族が模範を示し，みんなを指導しなければならないと大管長は考えました。

こうして1869年11月28日の日曜日の夕方，ヤング大管長はライオン・ハウス（彼の邸宅の名）の広間に入り，礼拝のベルを鳴らし家の女性たちを全員召集しました。夕べの祈りが捧げられた後，彼は家族に向かって次のように語りました。

「全イスラエルの民は私の家族に注目している。私の妻たち，子供たちの示す模範を見ている。それだから私は家族の秩序・節約・勤勉・慈愛の習慣を向上させるための会を組織

左上は1930年代のＹＷＭＩＡステーキ部管理会の写真である。右上はＹＷＭＩＡが組織されたライオンハウスとビーハイブハウス。撮影は1860年代。右下は1860年代のレクリェーション活動。

したいと考える。そしてまず第一に，服装，食事，さらに言葉使いなどにおける行き過ぎを是正してもらいたい。今や姉妹たちが一致して服装についての愚かさを捨て，控え目な衣服を考案し，温順な態度を身につけ，世間の人々が見習うだけの価値のある模範を示すべき時が来た。私は私の家族の者たちが世の愚かな流行を互いに競って追い求めている様子にうんざりしているものである。……

私たちはここに，リトレンチメント（質素，倹約を重んじる）協会を組織したい。それにあなた方全員が加わり，これまでの愚かで罪深い服装・食事・言葉使いなどの行き過ぎ，

軽々しい考えを止めてもらいたい。良くないもの，美しくないもの，あなた方を幸福にしないものすべてを是正し，その結果この世においても，また次の世においても本当に幸福に暮せるようにしてほしい。」

その夜そこに，教会の最初の女性のための組織である扶助協会の活動に熱心であり，かつまた有能な詩人であり著述家であるエライザ R. スノー姉妹がいあわせました。ヤング大管長は彼女にその新しい会の組織を手伝ってくれるよう頼みました。その会は「リトレンチメント協会青年女子部」と名付けられました。（間もなく「YWリトレンチメント協会」と変更されました）役員は会長エラ・ヤング・エンピー，副会長としてエミリー・ヤング・クローソン，ジーナ・ヤング・ウィリアム，マリア・ヤング・ドゥガール，キャロライン・ヤング，ドーラ・ヤング，フィービー・ヤングなどの姉妹がなりました。

この会のことがたちまち伝わりました。そして同じような会がソルト・レーク盆地中にたくさん組織されました。その殆んどがエライザ R. スノー姉妹の指導のもとに発会しました。一年以内に，オグデン，プロヴォ，ローガン，ブリガム市，バウンティフル，あるいはその他の小さな町や村にそうした会が次々に組織されました。

1896年のＹＷＭＩＡ会長会と関係者

この当時のそれぞれの会には従うべきプログラムもなく，まったく自治的でした。各会はそれぞれ独自の決意項目を採択しました。けれども普通はブリガム・ヤング大管長が彼の娘たちに提案したような項目を含んでいました。一方計画案や方針案は大部分各会で決定しました。

1875年青年男子相互発達協会（ＹＭＭＩＡ）が組織されました。ヤング大管長はリトレンチメント協会という名称をこれにならって変更し，青年女子相互発達協会とするよう提案しました。（初めは Young Ladies Mutual Improvement Association であったが 1934年に公式に Young Women's Mutual Improvement Association と改称された。）

会が成長し拡大するにつれて，方針案を設定し各単位の活動を調整するために，中央管理会の必要性が感じられるようになりました。1878年ソルト・レーク・ステーキ部にステーキ部管理会が初めて組織されました。そしてひき続き同様な管理会がその他のステーキ部でも組織されました。これらを総括するものとして1890年代に，「中央管理会」が設立されました。

組織の発展はそれを指導する人たちに負うところが多いものですが，このことは特にＹＷＭＩＡについて言えることです。過去100年間に6人の女性が中央管理会長として務めましたが，彼女たちはいずれも才能ある力強い指導者でした。

1880年6月にできた最初のまだ十分整わない中央管理会長会の役員には，会長としてエルミナ・シェパード・テイラー姉妹，副会長としてマーガレット・Ｙ・テイラー姉妹（ジョン・テイラー大管長夫人）マーサ・ホーン・ティンギー姉妹がなりました。最初のリトレンチメント協会の組織の場に出ていたブリガム・ヤング大管長の娘の一人であるマリア・ヤング・ドゥガール姉妹が後にマーガレット・テイラー姉妹の後を継いで副会長に召されました。

ＹＷＭＩＡ主催活動。金と緑の舞踊会フロアーショウ，春の歌祭，ロードショウ。

これらの女性は馬や馬車にのって何千キロも旅行し，組織づくりにまた巡回視察にと働きました。テイラー姉妹は1904年に亡くなられ，1905年に副会長マーサ・ホーン・ティンギー姉妹が中央管理会長に召されました。そして，ルース・メイ・フォックス姉妹とメイエ・テイラー・ニストロン姉妹（エルミナ・テイラー姉妹の娘さん）が副会長になりました。

ティンギー姉妹は22才で中央管理会長会に召され，1929年解任されるまで副会長として25年，会長として24年，合計49年間もＹＷＭＩＡ中央管理会長会で働きました。1929年3月28日ルース・メイ・フォックス姉妹が中央管理会長として支持され，副会長としてルーシー・グラント・キャノン姉妹，クラリッサ A. ビーズリー姉妹がなりました。11年間ＹＷＭＩＡを三人の有能な副会長，ヘレン・スペンサー・ウィリ

アム姉妹，バーナ・ライト・ゴダード姉妹，ルーシー・テイラー・アンダーソン姉妹と共に管理指導しました。

1948年4月バーサ　S．リーダー姉妹が中央管理会長となり，副会長にはエミリー　H．ベネット姉妹とラルー　C．ロングデン姉妹がなりました。三人は1961年9月30日解任され，代わって，フロレンス　S．ジャコブセン姉妹，マーガレット　R．ジャックソン姉妹，ドロシー　P．ホルト姉妹が新会長会として支持されました。

ＭＩＡが若い人をひきつけ，成長した理由はそのプログラムが固定的でないことによるでしょう。プログラムは青年の必要と興味に応じて組み立てられ，時代の変化に適応するように変えられてきました。

初期のリトレンチメント協会はあらゆる年代の女性から構成されていましたが，区別することが望ましいと間もなくわかってきたので，ジュニア部とシニア部に二分しました。それ以来，年令による組織区分は数回変更されました。たとえば10代の少女を対称としての夏の活動計画を提供するために1913年に組織されたビーハイブ・クラスは14才から18才までの少女のためのプログラムになりました。けれども1920年代の後半，プログラムはまた変更され，12～13才の少女も参加できるようになりました。一方上級ビーハイブ・クラスの少女たち（16～17才）はジュニア部として組織され，18～25才の女性はグリーナー（落ち穂を拾う人）として編成されました。

それからもたびたびクラスの再編成が行なわれ，今日では4つのクラス区分，つまりビーハイブ(12～13才)，マイア・

過去100年間における6代のＹＷＭＩＡ中央管理会会長。エルミナ　S．ティラー，マーサ　ホーン　ティンギー，

メイド（14～15才），ローレル（16～17才），グリーナー（18才以上）となっています。これに付け加えて成人はヤング・マリッド(若い既婚者)・クラスかミューチャル・スタディーのクラスに入ることになっています。この両クラスではクラスの生徒の興味に合致した学課を選択できることになっています。

中央管理会は各活動分野の専門家，著述家，プログラムの立案に才能ある人々などから構成されています。それと同時にＭＩＡのためになる多くのアイディアが提案されています。その一つとして12才～25才の女性を対称として，ガールズ・プログラムがあり，今やＹＷＭＩＡの中核になっています。リトレンチメント協会を組織するにあたり，ブリガム・ヤング大管長は彼の娘たちにこのように勧告しました。「イスラエルの若い娘たちは真理に対する生きた証を得る必要がある。私の娘たちが自分で福音の知識を得るように望む。」各ワード部，ステーキ部の少女たちは初めリトレンチメント協会に加入していましたが，ＭＩＡが組織されるとそれにそのまま加わりました。けれども特に故郷を離れてどこか他の地で就職した多くの少女たちはＭＩＡに参加できませんでした。

いくつかのステーキ部でこの問題を取り上げ，卒先してこれらの少女たちの所在をつきとめ，教会から離れることのないように計画を立てました。このようなステーキ部としてソルト・レーク市のグラナイト・ステーキ部があります。そしてそのステーキ部の計画案が後に教会全体から採用されました。グラナイト・ステーキ部のガールズ・プログラムの初代会長パーリ・グリーン姉妹は彼女のステーキ部の困難な問題について次のように述べました。

「1940年にグラナイト・ステーキ部でガールズ・プログラムが始められました。ある一人の女性が　P．ドリュー・クラーク第一副ステーキ部長に，教会ではどうして男の子にばかり多くの関心を払い，女の子には少しも関心を払ってくれないのですか，と質問したことがそのきっかけになりました。クラーク第一副ステーキ部長はこのことを深く考えました。彼はそのステーキ部では男の子の方が女の子よりも教会に多く

グレート・ソルトレークのサルティアでＭＩＡ活動として遊泳中の会員達

ルース　メイ　フォックス，ルーシィ　グラント　キャノン，バーサ　S．リーダー，フローレンス　S．ジャコブセン

出席しているかどうか知るために調査をしました。その結果驚いたことに男の子の出席数の方が女の子の出席数をはるかに上回っていたのです。」

補助組織の指導者たちが召集され，一定の資格条件を満たしたものには賞を与えるようにして，少女たちの日曜学校・ＭＩＡ・聖餐式への出席数を高め，什分の一を払い，清い生活をし，知恵の言葉を守ることを奨励するための計画が立てられ，実行に移されました。その結果が次のように表われました。すなわち，1941年６月より1943年12月までに，日曜学校への少女たちの出席率は47％から65％，聖餐式は20％から41％，什分の一の支払は32％から72％，知恵の言葉の遵守は86％から91％に高まりました。

このグラナイト・ステーキ部のガールズ・プログラムが成功したことから，このプログラムは1946年に管理監督会の指揮のもとに，教会全体のプログラムとして採用されるにいたりました。1950年４月の総大会でガールズ・プログラムは正式にＹＷＭＩＡに移管されました。このプログラムが実施されて18年たった今，1950年と1968年とを比較して見ると，登録者数50,425人が128,787人に，参加ステーキ部180が488に，聖餐式への少女の出席率47％が56％に，ＭＩＡへの出席率59％が64％に増えています。

ＭＩＡができた初めの頃は，中央管理会と地方の各組織との間の連絡が十分に取れませんでした。レッスンの教材を配布したり，指示を与えるための方法，手段の必要性が生じてきました。そういうわけで，中央管理会長エルミナ・テイラー姉妹，ブリガム・ヤング大管長の娘さんでまた有能な著述家であるスーサ・ヤング・ゲイツ姉妹は教会の若い女性のための雑誌を発行することが望ましいと考えるようになりました。

ご主人と共にハワイに伝道に出ていたゲイツ姉妹はジョセフ　F．スミス大管長に手紙を書き，その中にＹＷＭＩＡのための雑誌を発行したいという彼女の考えを述べました。彼女とテイラー姉妹，そして大管長会との間に何度か通信が交されたあと，ついに彼女はヤング・ウーマンズ・ジャーナルの編集責任者に任命されることになりました。1889年10月に第一号が発刊されてから，この雑誌には特別記事，物語，話などが末日聖徒の女性によって，末日聖徒の女性のために書かれ，ＭＩＡの役員・教師への指示と一緒に掲載されました。

レッスンのための提案は初めはパンフレット形式で提供されていたものが，ジャーナルの成功が確認されたので，これも1899年11月から毎月雑誌に載せることになりました。ＭＩＡの各部門が成長するにつれて，別々の学課が用意され，手引きも発行されました。ついにヤング・ウーマンズ・ジャーナルはＭＩＡの各活動部門の報告・指示とか，そのための興味ある一般的情報のみを掲載するようになりました。

1929年６月の大会中，ソルト・レーク・タバナクルで特別な式を行ない，このＹＷジャーナルは，ＹＭＭＩＡの月刊誌インプルーブメント・エラとめでたく「結ばれ」ました。この合併した雑誌の第一号が1929年11月に発行されました。

多くの傑出した女性がそれまでの40年間ジャーナルの編集にたずさわりました。ジャーナルの創刊者スーサ・ヤング・ゲイツ姉妹の娘さんリア　D．ウィッツォー姉妹，ジェームズ　E．タルメージ長老夫人メイ・ブース・タルメージ姉妹その娘さんであるエルジー・タルメージ・ブランドレイ姉妹アン　M．ギャノン姉妹，後に扶助協会誌の編集者となったメリー　E．コネリー姉妹，ケイト・トーマス姉妹，ルース・メイ・フォックス姉妹，マーバ　C．ジョセフソン姉妹ほか，いずれも有能な著述家であり編集者である人たちばかりです。

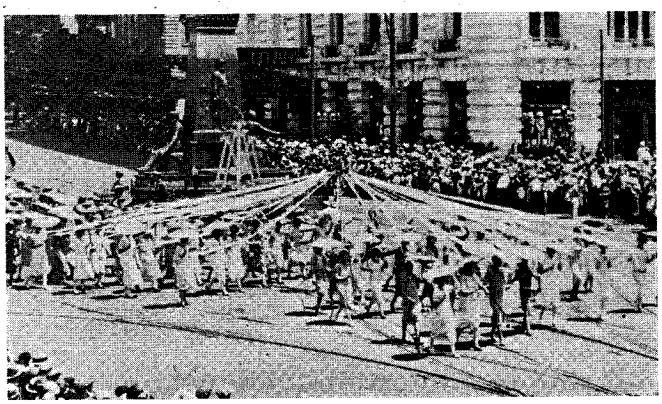
ダンス・音楽・ドラマその他の文化活動は，開拓時代から末日聖徒が力を入れてきたものであり，ＭＩＡはこれらの活動を促進するのに中心的役割を果たしてきました。音楽はＹＷＭＩＡが第一にとり上げた活動の一つであり，1892年に中央管理会に附随してできた二つの委員会のうちの一つは音楽

毎年６月にソルト・レーク市で開かれるＭＩＡ大会でのダンスフェスティバル

委員会でした。あちこちの地方で関心が高まるにつれて，ダンス，ドラマ，スピーチ，スポーツ，そしてキャンプなどの各委員会ができました。

YWMIAとYMMIAとが共同で活動し始めたのは1890年代のことで，初めて合同大会が開かれた年ですが，その後次第に両者のプログラムが融合され，今日のようにYM，YW両組織の会員たちは，ワード部にあってもステーキ部にあっても，また中央管理の面でも，クラスも活動も，レッスンの面でも，すべて一緒に行動するようになりました。

MIAによって展開された活動の多くが世界中から賞賛と承認を受けました。これらのプログラムのうちの典型的なものがロードショーでした。これは1924年にグラナイト・ステーキ部でパイロット・プログラムとして始められたもので，今ではあらゆる地域のMIAの一活動となっています。幾つかのワード部で短くて，活気があり，かつおもしろい寸劇をキャストをそろえて二，三場所を移して上演したところ大変



ソルト・レーク市のメインストリートを華やかにパレードをするMIAの会員達

好評でした。それをアメリカばかりでなく，オーストラリアや南太平洋でも同様にやってみたところ，やはり好評でした。ヨーロッパのようにワード部，ステーキ部などの間がたいへん離れているところでは劇団がそうたびたび旅行して上演することは困難なため，劇は特にユース・コンファレンスとかステーキ部主催の野外活動計画のあった場合にだけ上演されました。

全教会ダンス・フェスティバルなどもMIA特有のものです。最初のフェスティバルはソルト・レーク市の西へ30キロ，グレート・ソルト・レークに臨む行楽地サルティアで開催されました。そこの施設ではもはや全参加者を収容しきれなくなったので，ユタ州立大学の競技場に場所を移しました。そこでは一度に6千人以上踊ることができ，二晩続きのフェスティバルで見物している人を入れて一晩4万人以上収容できます。

確かに，YWMIAは時代の流れと現代の若い女性の要求に合致して成長，発展してきました。けれどもブリガム・ヤング大管長の強調した基本的な方向は失われてはいません。服装を是正しなければならないことが今も教会の若い女性にとって大切であることに変わりはありません。YWMIAが組織されてから34年たった1903年，教会歴史記録者補助アンドリュー・ジェンスン長老夫人はヨーロッパを旅行中次のように述べています。「私が訪れた6カ国のうちのどこにも，私がソルト・レーク市の街路で見かけるような若い女性の派手な服装を見ることができませんでした。ヨーロッパにいる間に，ローネックのドレスやショート・スリーブのドレスを着て町を歩いていたり，礼拝の場所にいたりする女性を見たことがありませんでした。派手な服装は私たちの社会で今広がっている一つの悪ではないかと私は考えるのです。」

この点に関しては現在も，1869年も，また1903年も変わりありません。そういうわけでYWMIAの指導者・会員共にいつもその時代の流行には注意を払わなければならないのです。確かに，ロング・スカートはもう流行遅れでしょう。そしてブリガム・ヤング大管長が叱ったスカートの後部をふくらますための腰当てなどは今日のティーン・エイジャーにとってはこっけいに見えるでしょう。しかし服装を控え目にすることは依然として若い女性に教えられていることであり，MIAでも「イスラエルの若い娘たちが真理に対する生きた証を得る」ことができるようになる重要性を強調してきました。

次の百年間にYWMIAにはどんなことが待ち構えているでしょうか。これには誰も答えることはできません。けれども今までの百年間を振り返って考えてみるならば，それと同様にYWMIAのプログラムは教会と共に，時代と共に変化しながらも成長していくことでしょう。YWMIAのプログラムの一部であったものが他のものとかえられることもあるでしょうし，また活動やレッスンで新しい違った面が強調されるようなこともあるでしょう。ステーキ部などで成功したパイロットの幾つかのプログラムはきっとYWMIA全体のプログラムにとり入れられることでしょう。

しかし福音の原則は永遠のものであり，百年前に娘さんたちに与えたブリガム・ヤング大管長の忠告と訓戒は，MIAの発展の基礎となるべきものです。1930年教会創立百年祭に当たり，YWMIA中央管理会長ルース・メイ・フォックス姉妹の書いた歌「たゆまず進め」はMIAの人気ある賛歌となりました。たぶんその歌詞は過去百年間YWMIAがたどってきた方向，また今後百年間にたどると思われる方向を一番よく現わしているものでしょう。

父の拓きし地に　かがやける
主の宮を建て　讃歌をささげん
父ののこせしは　世の富にあらず
愛と健康との　主の恵みよ……
わが受けし権利よ
続け，励め，進めよ

薬剤の賢明な使用

J. ルイス シュリッカー博士

今日我々は多くの誘惑に会い，自己の神聖な肉体を冒とくする無数の害悪にさらされている。それらのあるものは，明らかに害があると我々皆が容易に認めるものでありあるものはもっと巧妙で油断のならないものである。それらの油断できないものの中に薬剤がある。

新聞，雑誌，ラジオ，テレビ，その他のマスコミを通じて我々はインド麻で作られた麻薬（マリファナ）やＬＳＤのようなたくさんの麻薬が流行し，それらが本来持っている危険性についてますます多くのことを知らされている。

我々の家庭でごく一般的に見られ，使いたいと思う人がたやすく手に入れられる多くの薬剤の危険性については，重要でありながら余り公にされていない。これらのあるものは，適正かつ賢明に使用される時は，人間のからだにとって有益であるが，適正を欠いて過度にとられたりする時は，かえって有害なものとなる性質のものである。

1833年２月，教会員に啓示として与えられた教義と聖約89章には多くの知恵の言葉が含まれている。強き飲料，熱き飲料，そしてタバコに関する勧告に加えて，人間の幸福を持続させるため，さらに完全な導きの言葉が与えられている。10節と11節で次のように戒められている。

「また，われ誠に汝らに告ぐ，すべて体のためになる青物は，人間の身体と活力と利用のために神これを定めたり。すなわち，その季節のあらゆる青物およびその季節のあらゆる果実，**すべてこれらは慎しみと感謝とをもって用うべきものなり**。」

この薬草（青物）を控え目に用いるようにとの訓戒は，我々にとって重大なことである。この啓示が下された当時の薬草はありふれたもので，薬剤を作るのに一般的に用いられていた。今日，薬剤を使用するのに賢明であるようにと望まれるゆえんがそこにある。

ここでは，前述したような一般に有害な薬品と知られているものの危険性については詳しく述べることはせず，むしろあまり知られていない薬品や調合剤の危険性と，それらの使用にあたっての取り扱いの注意や，適度に用いることなどについて考えてみよう。

睡眠薬：我々は，毎日の行動につきまとう不安，心配，圧迫，緊張の充満した時の流れの激しい時代に住んでいる。その社会的圧迫のあるものは日常簡単に取り扱われ処理されている。しかしあるものは容易に解決されず，我々の心の中にたまって我々を悩まし，病気にかかる一因となるのである。

しばしば，睡眠は文字通りの不眠症や，あるいは浅くて落着かない，夢ばかり見るような眠りによって妨げられることがある。このような状態にあって，ある人々が一時的にでもその状態を和らげようと，眠けをもよおす薬剤にたよることが次第に一般的になってきている。睡眠をもよおすあらゆる薬には，容易に常用，習慣化する潜在的な性質があり，一方肉体は苦痛の軽減を求めてそれらの薬にたよっている。そこでこれらの薬剤を長期間使用することには常用習慣化の危険がある。

こうして，最初の問題や心配がさらに重大な問題によって複雑なものとなり，かえってそれが大きな問題になってしまうことがある。人間はそのことによって自主性を失い，薬のどれいとなってしまう。

よく次のようなことを耳にすることがある。「はい。でも私はそんなになりませんよ，注意しますから。」このような人々は，これらの薬剤の巧妙な働きや，たとえ関心の度合が初めのうちはわずかなものであっても，ついにはそれに依存してしまわねばならなくなるということを見落しているのである。

あらゆる薬剤がそうであるように，これら睡眠薬もその処方と使用については特別の指示がある。信頼のおける処方で正しく適度に用いるなら，多くの助けと恩恵が得られる。しかし，適度な限界を越え医学的指示に従わないで用いると，恐ろしい危険とさらに多くの問題が生じる。人はもはや自分の主人たることができず，破滅的習慣のどれいとなってしまう。

精神安定剤：これらの薬剤は開発されてからまだ比較的日が浅く，20年ほど前まではほとんど知られていなかった。し

かし，開発されてからというもの，アメリカの大衆はこの種のおびただしい調合剤に攻められるはめになり，またたくまに広がった。今一度言うがこれらの薬剤は厳重な注意をもって適度に使用されねばならない。適正に使用されるなら絶大な援助をもたらしてくれるし，多くの場合，それなしでは問題や心配といった精神の重みで事実上無能力となってしまうかも知れない人々に，安定を与え能力を発揮させることができる。

精神安定剤は現実の代用品とはならない。この世の現実とそれから生じる緊張の数々については，それによって起こるところの根本的な原因や複雑な要因を和らげるため，日常の生活を改革するのに必要な事柄を系統だてて実行する必要がなお存在するのである。これらの薬剤は賢明に注意して，適正な管理のもとでのみ使用されねばならない。この種の調合剤を長期間継続的に使用するには，それが本来持っている潜在的な危険性に注意し，十分認識しなければならない。

活力剤：ある人々の間では，自己の活力を強めるのに人為的な手段にたよろうとする「流行」が著しくなってきている。つまり，デキシドリンやアンフェタミンといった種々の興奮剤が不適当に使用されている。これらの薬剤は，疲労を知らせるようあらかじめ体内に設置された機能を隠ぺいしたり，破壊して，人工的に良好な感覚を与える。これらは普通ねむけを催す薬を用いたあと，「薬の副作用」や意気消沈を中和させるのに眠り薬と関連して用いられている。これらの薬は，緊張や圧迫を気づかせないようにおおい隠すのに，肉体の生理的機能を征服してしまうのである。この種の薬剤の使用については明確な医学的指示があり，周到に守らなければいけない。むとんちゃくな使用や誤った使用は強く非難されなければならず，今一度あらゆる状態に対して忠告されねばならない。

消化剤：われわれの文明で，絶えず主要な問題となっているものの一つは肥満についてである。ほとんどの肥満はその人の単純な食べ過ぎやわがままに原因している。医学上では肥満のあるものは内分秘の不均衡や異常によるものであるといわれているが，この論議の中には含めないことにした。肥満が多くの肉体的病気や異常の前兆であることは一般的な知識となっている。それらの中で考えられるものに，心臓の故障，消化器系の問題，排泄器官の問題，動脈硬化，そして活力保持の減退などがある。肥満体の人は，からだの活動が低下して，さらに生命維持の作用の効力を減少させてしまっている。こうしてその肉体はなおさら低水準の傾向をたどり，からだの働きと生産力はさらに減退する。

肥満と戦うにはその人自身の強大な意志力と決心が必要とされる。そのことは，自滅の状態が潜在的に存在しており，問題を解決するのにあらゆる努力を尽くさねばならないことを認識することでもある。意志力と決心は薬からは得られないのである。消化剤の使用は，自己の肉体のために責任を取ろうとする人が，自己敗北と不本意を容認してしまうことである。

時には，信頼ある医者が，飽くことを知らない食欲を患者に回復させるのに消化剤を処方することがある。しかしその目的で短期間消化剤を使用することは，どんな意味においても，患者を自己の肉体とその機能を調整し統制する責任から免れさせることにはならない。

要約すると，我々は神の形に似せて造られた者であり，したがって我々の肉体は最も神聖な宮居なのである。個人の統制力や感化力ではどうにもならない病気が数多くあることは明らかなことである。しかしながら，知っていてあるいは知らずして，自分の上に招いている病気も数多くある。我々が所有している最もすばらしいたまもの——肉体——の神聖を冒とくする状態にあるのは実はこのグループなのである。

無分別な誤った薬の使用は，使用者にとって自滅の行為であり，自己のからだをそこないその働きを不良化してしまう結果になる。神が我々のために用意してくださったすべてのものをそう明にかつ適切に使用することは，信頼のおける医学的助言でもって指示が受けられる時に初めてできることなのである。

女性を含めて多くの人々に，もう一度啓示を読むよう勧める。

「然り，また汝らの食物，衣服，家屋，小屋，果樹園，野菜畑，葡萄園など何れにしても，それらのために地より生ずる諸々の草と善きもの，然り，すべてこれら季節によりて地より生ずるものは，皆人の為人の用いんために造られ，眼を楽しませ，また等しく心を悦ばせんためなり。然り，これらは肉体を健にし人に元気をつくるよう，食物，衣服，味，香りのために造らる。而して，すべてこれらのものを人に与えたるは神の悦びとするところにして，この目的のためにこれらは造られたれば，人は適量にこれを用いて貪らず，または無理に取りて用うべからず。およそ人何事にも神を怒らせずまたは何事にも神の怒り燃ゆることなし，ただすべての事の中に神の御手のあることを告白せず，その誡命に従わざる者に神の怒りあり。」（教義と聖約 59：17〜21）

（注）1. ＬＳＤとは，リゼル酸ジェチルアミドと言い，ライ麦などにはえるカビの一種である麦角からとれる幻覚剤である。一万分の一グラムを飲むと，色彩的幻覚におちいる。いわゆるサイケデリックという言葉もそれから出ている。

ソルトレーク市モニュメント・パークの第十三ワード部日曜学校福音の教義クラスの教師である Ｊ・ルイス・シュリッカー博士は，神経外科医であり，薬剤使用に伴う諸問題にも精通している。

最良の人生

立派な女性が，妻，母親，主婦，家庭の中心となるという最も幸福な最高の夢を実現することはこの上なく尊いことです。

もし人生の過程で，これが起こらなかったり，あるいは遅れるようなことがあったら，あなたはそれが起こるのを待っている間，勇気を持って進み，人生を最良のものとなして満足できますか。さらに，あなたは人生を楽しく，健全で意味深い，人に奉仕するものとしますか。いつの日か起こるように期待しているだけでなく，日常起こることのためにも，備えをしていますか。

あなたは，自分の夢を最高度に実現するために，どのような準備をしようと思っていますか。もし人生が望むようなものでなければ，申し分のない人生にするために，どのように準備するつもりですか。人生で最も幸福な望みを，きわめて優雅に，自分にふさわしく達成するために，あなたはどのようにしていますか。

その原則は簡単です。

自己に忠実——人生が，私たちの望むすべてのものをもたらそうと，あるいは期待以下のものをもたらそうと，自己に忠実であることです。心を広く持って現在の力以上に，日々の務めを果たして下さい。

他人に忠実——私たちの身近にいる人々，愛する人々，私たちの家族や友人以外の人々に忠実になることです。

人生に忠実——私たちの営む生活によって周囲の人々の愛と尊敬を受けることができます。

神に忠実——神の最も崇高な望みと戒めに従うことにより私たちは多くの喜びと貢献を知ることができます。

（ソルト・レークのタバナクルにおいて，エマ・レイ・リッグス・マッケイ姉妹に捧げたマリオン　D．ハンクス長老の演説より抜粋）

ほかならぬあなたが

エレーン　キャノン

劇
ゲーム
ユース・コンファレンス
フェスティバル
教会のピクニック
奉仕計画
ファイアサイド
クラスの集い
福祉活動
……に

ほかならぬあなたが必要です。みんながそこに参加しますが……

大勢だともっと楽しいから，というのではありません。ほかのだれにもできない，あなただけにできることがそこにあるのです。人々と明るく交わり，心づかいを示すことを学んだあなた，人々に関心を寄せ，思いやりと熱意を持ってはつらつとしたあなた。あなたは，招かれた人，参加者として，主催者の望む状態をいっしょにつくりあげる責任があることを知っています。そうしてこそ会は成功するのです。その場にいるだけでは不充分……。そのようにすばらしいあなただから……，ほかならぬあなたが必要なのです。

子供のページ

長　い　夜

アイリス・シンダーガード

朝早く食事をすませると，ヒルダは小屋のそばに立っていました。彼女は，父が川のそばのまがり角で，荷馬車を走らせるのを見つめていました。病気のためにすわれなくて，荷馬車の後に横になっている母の姿は見えませんでした。

荷馬車が見えなくなるとヒルダは言いました。「さあ，マシュー，遊びに行きなさい。あなたもよ，ジェーン」

ヒルダはとてもさびしかったのですが，自分が10才であることを大変誇りに思っていました。父は，小さい妹や弟，そして牛のベシーの世話をするように言っていきました。父が母を医者にみせるために連れて行くのに，町までほとんどまる一日かかるからです。

その日がすぎました。翌朝子供達は小屋の上にある大きな赤い岩の上で遊びました。昼ごはんの後には，ゆるやかに流れる川のほとりで，しめった砂の上に，小枝で家を作りました。

ヒルダは，豆と冷たいとうもろこしパンの夕食を作りました。寝る時間になると，三人の子供達はひざまづいて家族の祈りをしました。

ジェーンは立ち上ってたずねました。「ヒルダ，屋根うらの部屋にねるの？ここで眠ってもいいの？」

「いいのよ。このベッドには三人寝られるもの」ヒルダはいいました。

夜の間ずっと火が消えないようにまきをくべて，それからジェーンのそばによりそってベッドに寝ました。

ヒルダはふと目をさまし，眠ってからずいぶん長い時間たっているのがわかりました。じっと横になっていました。何かの音で目がさめたことがわかりました。「マシューにちがいないわ。いつもあお向けに寝るといびきをかくんだから」と考えました。

けれども，マシューは自分の横に静かに眠っていました。ヒルダは気のせいだと思いました。暖かいかけぶとんを引き上げると目をとじました。

夜の暗やみの中で，もう一度その音がきこえて来ました。おそろしくてふるえてきました。その音の正体がわかりました。彼女はこれまでに，え物をさがしている野性のライオンのうなり声を聞いたことがありました。けれど，こんなに近くで聞いたことはなかったのです。

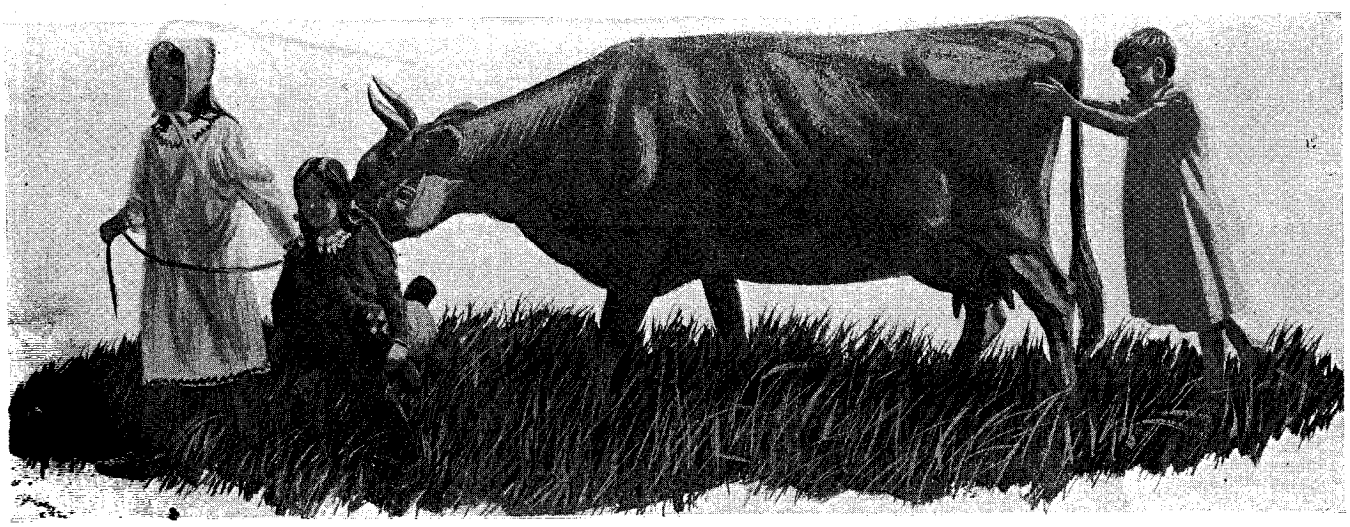
「うちはだいじょうぶだわ」ヒルダは自分に言いきかせました。「どんなライオンだって，入って来られないわ」けれども，突然彼女はベシーのことを考えました。ついきのう，父が，差しかけ小屋では安心できないと母に言っているのを聞いていたからです。小屋は開いていました。ヒルダはあの小屋では，えものをさがして歩いているライオンをふせぐことはできないと知っていました。

ライオンは，川の所までは下りては来ないだろうし，山の上の木々の間にいるだろうと，自分に言いきかせました。

少しの間にとても静かになりました。けれど想像したよりもっと近い所でライオンがほえたのです。マシューは寝がえりをうち，ジェーンは起き上りました。

「ヒルダ，何か音がきこえたわ。外に何かいるの」とジェーンは聞きました。

「いいえ」ヒルダは，すぐに答えました。ジェーンの起きた



ことがうれしかったのです。二人で聞き耳を立てていればライオンがどんなに近くにいるかがわかるだろうと思ったからです。次の瞬間，ライオンはもっと近い所でほえました。ヒルダは，ライオンが小屋の上にある大きな赤い岩の上にいるにちがいないと思いました。どうしてこんなに近くへ来たのか不思議でした。父が，野性の動物は人間をこわがるものだと言っていたからです。

ライオンがねらっていたのは，牛だったのです。ヒルダは何をしなければならないのか，わかってきました。靴もはかないでドアに走りよりました。「ジェーン」彼女はドアをしっかり締めている皮ひもをゆるめながら言いました。

「ここにじっと立っていてね。私が呼んだら，ドアを広くあけてちょうだい。私はベシーを連れに行くから」

外には，かけた月が西の空に低くかかっていました。そのかすかな明りをたよりに，ヒルダは牛小屋に通じる小みちを走りました。牛小屋の中で，ベシーが足をふみならしているのが聞こえました。ヒルダが低い門の掛け金をはずした時，ベシーはこわくて息もできませんでした。すばやくロープを取って牛の首にかけました。

「さあ，ベシー」彼女は小声で言いました。牛を小みちに連れ出しました。ヒルダは差しかけ小屋のそばの岩の上に，黒い影を見ました。うずくまったライオンの姿ではないかと思ってこわくなりました。ベシーもひどくふるえていました。ヒルダは，力の限りロープをたぐり寄せました。牛が急に走り出してやみの中に行かないようにするためでした。牛が逃げるよりも先にライオンが牛に追いついてしまうからです。

「ジェーン」ヒルダはロープを力いっぱい引っぱりながらさけびました。「来て手伝ってちょうだい」

小さな妹が，小屋から走り出ました。「後から牛を押して」ヒルダは息を切らして言いました。二人は一緒に，ふるえる牛を小屋まで押して，やっと中に入れました。ヒルダはドアをバタンととじて掛け金をかけました。

「ジェーン，もっと木をくべて。マシュー，ドアのまん前に戸だなを置くから手伝って！」

ヒルダは，牛を寝台のそばにゆわえつけて，大きなベッドの真中に，ジェーンとマシューと並んで腰を下ろしました。子供達は，歌を歌って2，3分前のおそろしいできごとを忘れようとしましたが，とちゅうで何度も，声をひそめては物音を聞こうとしました。

ヒルダは，ライオンが小屋のまわりを歩きまわり，時々歩くのをやめて，ドアのところでにおいをかいでいるのがわかりました。小さい子供達にもそれがわかりました。

一度ジェーンが小さな声で言いました。「中に入って来るかしら？」

「いいえ」ヒルダは，はっきりと答えました。

「窓をこわせるの？」とマシューは調子の高い声で言いました。

ヒルダは「いいえ」と答えましたが，その声はあまり力強くありませんでした。窓ガラスがとてもうすく見えました。

「皆でもう一度お祈りをしましょう。天のお父様は私達を守って下さるでしょうから」と彼女は言いました。

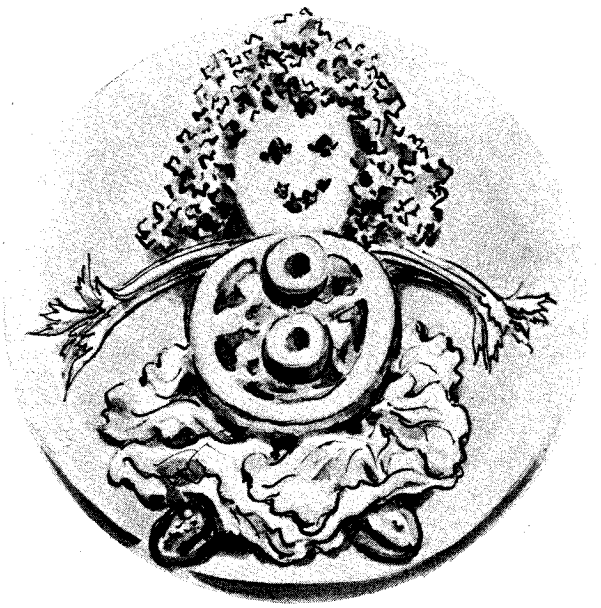
何時間かたって，大きな赤い岩の上にある空が青くなり，新しい一日が始まりました。

まもなく，耳なれた，待ちに待った音，父の馬の足音が聞えてきました。

父は，母の病気がすぐに良くなって，間もなく家にもどれるだろうと言いました。それから，ヒルダに本当にライオンが家まで来たのかとたずねました。ヒルダは父の手を取って小屋のうら一面にあるライオンの飛びはねた足跡を見せました。彼女がしめったどろを指さすと，父は何も言わずにうなずきました。流れのそばに点々としてついている足跡は，あきらかにライオンが来たことをものがたっていました。

サラダでつくった女の子

ひつようなもの
かたゆでの卵一こ（あたま）
トマトはんぶん（からだ）
セロリのくき２本（うで）
小さいあまいピクルス２こ（あし）
赤いちしゃの葉（スカート）
おろしたなまのにんじん（かみのけ）
くろいオリーブ（ボタン）
チョウジ（目と口）



かたゆでの卵のカラをとります。目と口をつけるために，卵のかたがわにチョウジをつきさします。皿の上のはしに，卵をおきます。なまのにんじんをすりおろして，かみのけとして，卵のまわりにおきます。オリーブをうすく切って，はんぶんのトマトの上にもります。そのトマトと，ほかのざいりょうをえのようにおきます。サラダの女の子は，作って楽しいうえにたべてもおいしいです。

あたらしいおうち

ソルベーグ ポールソン ラッセル

くろちゃんは，おかあさんねずみと おとうさんねずみと ちいさくて コロコロした いもうとの まあちゃんと ふるい きのあなのおうちに すんでいました。

あきの あるひ，パパは いいました。「にづくりをしなさい。あたらしいおうちを みつけるんだよ。いまのおうちは こわれていて たおれかかっているからね。」

すぐに パパと ママと くろちゃんと まあちゃんは，あたらしいおうちを さがしに もりにいきました。みんなはじめに あなを みつけました。

「きたなすぎるわ」とママが いいました。つぎに，たかいえだのなかに あなをみつけました。「ちょっと たかすぎるわ。まあちゃんが おちたら たいへんね」それから，ほかのところもみましたが ママのきにいりませんでした。くろちゃんと まあちゃんは はねまわって いました。くろちゃんは きゅうに おおきなこえで いいました。「ママ，パパ，みつけたよ」

「みつけたって なあに？」まあちゃんは おにいちゃんのところに はしって きました。「とてもおおきくて ふるい ジャムの ビンなんだ」「だれかが もりのなかにわすれて いったんだね。だから これは ぼくたちの おうちなんだ。そうじゃない ママ？」と くろちゃんが ききました。

ママと パパは きのしたの くさのなかに ころがっている おおきな ガラスのビンを みました。ぜんぶを みまわしてから ママは ニッコリわらいました。「おうちに

は　ピッタリね」

「そして　このへんには　たくさん　たべるくさが　あるしね」とパパも　ほほえみながら　いいました。

ねずみの　いっかは　やわらかい　かわいたくさや　タンポポのむくげを　あつめては　それを　ビンのなかに　はこびはじめました。すぐに　ねどこのよういが　できました。

それから，みんなは，ビンの　くちのよごれを　ふいて　ドアに　するために　あなをのこして　きのかわで　しめました。

それがおわると，すぐに　あめが　ふりはじめました。あめは　ガラスのうちに　はねて　じめんに　ながれおちました。「おもしろいや」とくろちゃんは　さけびました。「おうちのなかから　そとが　みえるし，あめが　おちるのが　みえるんだもの」

まあちゃんは　みんなが　ガラスに　はなをおしつけているので　キャーキャー　わらいました。

少したつと，あめは　ふりやみました。かぜが　でてきてきのあいだを　ふき，ガラスのビンから　のこっていたあめのしずくを　おとして　しまいました。

ねずみのいっかは，すぐに　ぐっすりと　ねむり　はじめました。一ばんじゅう　ねむりました。けれども，くろちゃんが　めをさましたとき　まだそとは　まっくらでした。くろちゃんは，ママと　パパが　ヒソヒソはなしているのを　ききました。まあちゃんが　みみをかいているのも　みました。「みんなおきているの？」とくろちゃんは，ちいさいこえで，ききました。「おきてるけれど　まだねむりたいの。だって　まだ　くらいんだもの」とまあちゃんが　いいました。

「さあさあ　ねむりなさい。もうすぐ　あさに　なりますよ」とママがいいました。

「ここにいると　かぜが　ふいているのも　わからないのね」といって，まあちゃんは　かわいらしい　あくびをしました。

「まだねている　じかん　だよ。あさのたいようが　あたったので，はやく　めがさめたんだね」とパパが　いいました。

みんなは　ねむろうと　しましたが　ねむく　ありませんでした。みんなは　まちました。ながいこと　まちました。でもひかりは　はいって　きませんでした。

とうとう　まあちゃんが　いいました。「ママ　あさは　くるのを　わすれたんだとおもうわ」

「そんなことは　ないさ。だけど　ふしぎだね」とパパが　いいました。

まもなく　ねずみのいっかは　ねどこを　ぬけだしました。みんなは　どうして　あさに　ならないのか　しりたいとおもいましたが，おなかが　すいてきました。

「おなかが　すいたよ。すごく　はらぺこなの」とくろちゃんはいいました。

「そとに　でていって　たべものが　あるかどうか　みてこよう」とパパが　いいました。「このドアをあけてみよう。そとが　暗くても　たべものの　においは　わかるからね」

おとうさんねずみは　ドアを　つよく　ひっぱりました。すると　ドアがあいたとたんに，ひかりが　ねずみのうちのなかに　はいってきました。

「あさが　きたよ」くろちゃんは　さけびました。そしてくろちゃんと　まあちゃんと　ママは，おとうさんねずみのあとから　そろって　とびだしました。みんなは　あたりを　みまわしました。そして　おなかを　かかえて　わらいころげました。ジャムの　ビンのおうちは　すっかりはっぱで　おおわれて　いたからです。

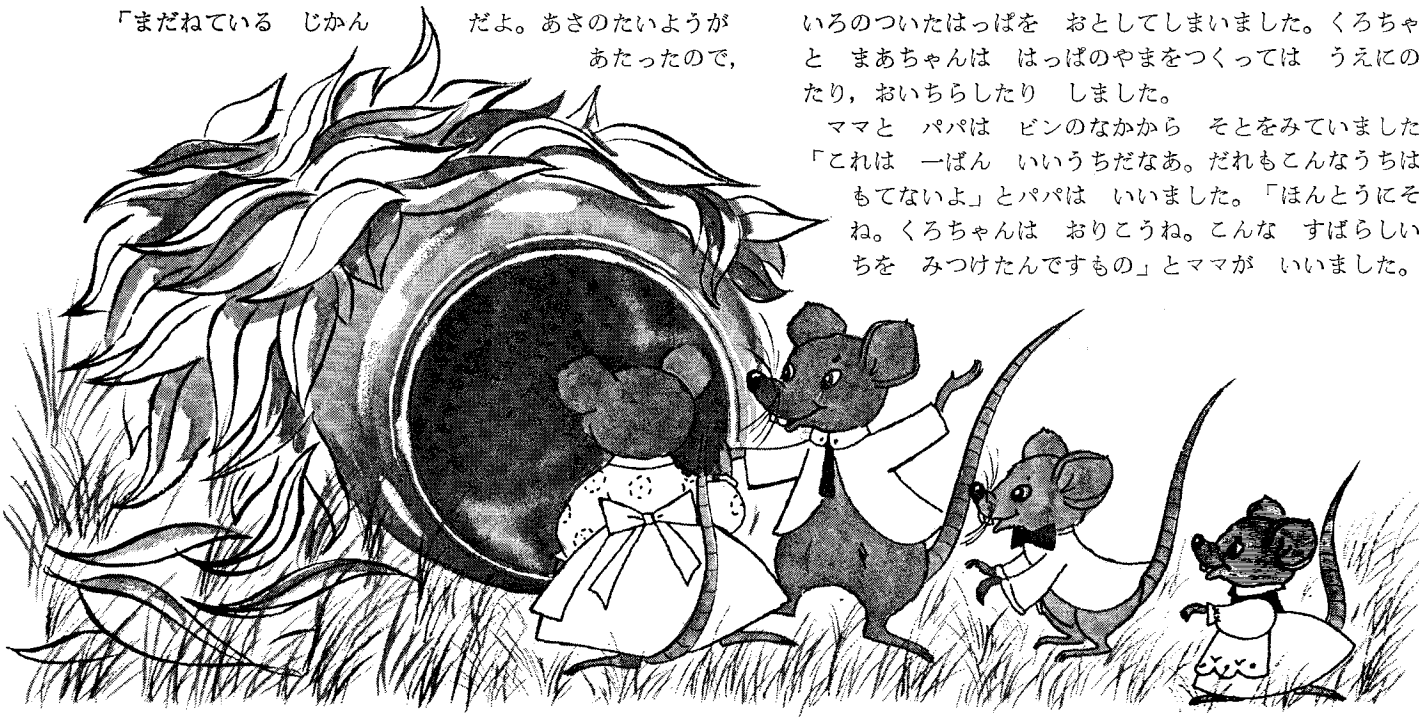
「かぜで　はっぱが　おちたんだ」とくろちゃんが　いいました。

「だから　ひかりが　あたらなかったんだわ」とママがいいました。

「すぐに　はっぱを　かたづけよう」とパパが　いいました。

すこしして，ねずみのいっかは　ビンのうえの　きれいにいろのついたはっぱを　おとしてしまいました。くろちゃんと　まあちゃんは　はっぱのやまをつくっては　うえにのったり，おいちらしたり　しました。

ママと　パパは　ビンのなかから　そとをみていました。「これは　一ばん　いいうちだなあ。だれもこんなうちは　もてないよ」とパパは　いいました。「ほんとうにそうね。くろちゃんは　おりこうね。こんな　すばらしいうちを　みつけたんですもの」とママが　いいました。



開拓者の女性達

ケネス W. ゴッドフリー

自分の家に最後の別れを告げるいとまもなく，愛着のある大切な物を数多く後に残して，開拓時代の女性達は，放浪の旅をする家族のため，粗末な幌馬車を作るために自分たちにできることをしたのだった。彼らは文明の利器の多くを，ニューヨーク，オハイオ，ミズーリ，イリノイの各州に残してきた。こうして彼女達は，生活を少しでもしのぎよいものとするという目標に向かって，自分のすべての才能と技術を傾けねばならなかった。彼女達は，モーセに従った古代イスラエルの女性達のことを，そして，リーハイと共に荒野へと導かれた女性達のことを思ったにちがいない。そして，この思いが，彼女達に力を与え，神の助けによって，彼女達もまた「約束の地」すなわち自分自身の家庭をそこに見出すことができるとの希望を新たにしたのだった。

「料理の材料はといえば，一緒につれて来た牛のミルクかいくらかのとうもろこし，ライ麦のひきわりか小麦粉，それにほんのわずかの調味料に限られていた」とある記者が書いたが，彼女達はそれで，食欲をそそり，健康にもよい食事を作ることを学んだ。彼女達は，残りのミルクや乳脂を幌馬車

の横につり下げておくと，幌馬車の動きにつれて，それがバターになることを発見し，イースト菌の使い方をおぼえた。キャンプが張られ，鉄製のストーブや，丘の中腹に穴を掘って作ったかまどに火が入れられた時には，よくこねたパンが焼くばかりになって用意されていた。先にここを通過した女性達が，後から来る人々のためにかまどをすぐ使えるように準備して行ってくれるのをよく発見したものだった。

メアリーM. ボート・ガーンは，７人の子供を連れて大平原を横断した。彼女はいつものイーストにとうもろこしを入れて濃くした。太陽が大切に貯えてあるイースト菌を殺してしまうことを知っていたので，彼女は生パンを小さな四角の形にして，幌馬車のかげにいつも置いていた。新しいイーストが必要になった時には，残りの生パンからそれを作った。毎朝キャンプを立去る前に，メアリーはパンをこね，それがイースト菌でふくれるように，幌馬車の中に置いた。

旅をしている間にイーストが働き，夕方には，家族が焼きたてのおいしいパンで食事をとることができるのだった。

しかし，食物はいつも充分ではなかった。ホセア・スタウトは，ノーブーを去ってわずか二ケ月後の1846年６月20日の日記の中にこう記している。「飢えが我々をひどく苦しめ始めた。妻は，本当に我々の最後の食事ともいうべき夕食を準備するために出て行った。食事はほんのわずかの種まき用の豆と，わずかのゆでたベーコンをスープにしたものだった。小麦粉は割り当てるだけ充分にあり，実際にこの最後の食料は，第三者の目には充分なものだと映る程，我々にとってもいつもの食事より，ぜいたくで，豪華なものに思えた」

この夜，これがスタウト家にとっては最後の食料なのだとは夢にも知らずに，二人の男が彼らと共に食事をした。その後，この家族は，ゆでたとうもろこしを食べるしかなかった。

幌馬車がアメリカ野牛のいる地域に来た時には，人々は殺したばかりの新鮮な肉から切り干し肉を作る仕事で非常に忙しかった。肉を細長く切り，それを沸騰した塩水につけた。この肉は，除血の目的で，夜間にたいている火の上の方に張った太い綱の上にかけておかれた。次の日の朝，ひも状の肉は，太陽で乾燥させるために，幌馬車の先端にくくりつけられた。日数がたつにつれて，幌馬車隊に加わっている女性達の間には，共通の苦難に耐えることによって，非常に親しい交友関係がもたらされた。

コレラや山岳熱にかかった時，または出産の場合など，お互いに看病し合った。エライザ　R. スノーは，ノーブーから出発した最初の夜，９人の子供が生れたことを記録している。

時がたつにつれて，女性達はあらゆる状況のもとで出産するようになった。

スノー姉妹はこう書いている。「……ある者はテントの中で，あるいは，幌馬車の中で，またある者は嵐や吹雪の中で出産した。一人の子供は，地中に棒を打ち込み，そのまわりを毛布で囲み，樹の皮で屋根をふき，その屋根からは雨もりがしていた粗末な仮小屋で生れたと聞いている。親切な姉妹達が屋根からしたたり落ちて来る雨を受けるために，お皿を持って立っていた。こうして，新しく生れ出る子供とその母親は，雨から守られたのである」

姉妹達は，神権者達がやったように，自分達で立てた目標を達成するために，さまざまな組織を作った。ある組織においては，ルイザ　バーンズ・プラットが日記に書いているように，このような決議がなされた。

「決議：兄弟達が祈とう会に出席するようにと姉妹達を呼びに来て，談話を始め，何のために姉妹達の所に来たかを忘れてしまっている時には，姉妹達はどこか良い場所に行って自分達だけで祈りをし，それから各自の仕事につくこと」ルイザはまたこうも書いている。「もし男性が女性を支配しようとする時には，油断してはいけない。私たち女性は男性と同等の権利があると信じているからである」

子供達をベッドに寝かせた後，しばしば，小グループになって，夜の涼しさと静けさを楽しんだものだった。ルイザは「プラット川流域は美しかった」と記している。姉妹達は，月の光の中を川岸にそって散歩したり，川の水で水浴を楽しみ，気分を爽快にすることができた。「同時に私達の心は，この広大な荒野の風景の美しさと荘厳さに対する驚きと感嘆で熱く燃えた」とも書かれている。

退屈な日が多かったが，時にはラケル・リーが旅路の終り近くに遭遇したような，大荒原を渡る姉妹達が求めていた以上の，刺激的な事件が起ることもあった。ラケル・リーが，幌馬車の横を重い足取りで，わずかに吹く風に涼みながら歩いていた時，突然の突風が，彼女のスカートをわだちの中に巻き込んでしまったのだ。歴史小説家のジャニタ・ブルックスは「ラケルが気づく前にスカートはわだちの軸にぐるぐる巻きついて，スカートを引き離そうとしながら助けを求めて叫び声を上げたが，たちまち，スカートはしっかりと巻き込まれてしまったので，両手で二本の輪止めを握り，両足は別々の輪止めに入れるのが精一杯で，わだちと一緒にぐるぐると身体が回転していた」と書いている。

幌馬車がやっと止まった。ラケルは自分がまだしっかりとわだちに縛りつけられたまま，右上方にいるのに気づいた。皆が集まってきて，何とか彼女を自由にしようと試みた。

スカートを切ってしまえば問題はなかった。しかし，そうすれば着る物に不足している彼女の衣類を一つ駄目にしてしまうことになるのだ。

そこで，彼女のスカートのホックをはずし，ペチコートのボタンをはずして，脇あきを注意深く切って彼女を引出せば自由になれるだろうということに相談がまとまった。靴ひももゆるめた。それから一人の姉妹が，彼女を好奇の目から守るために毛布を持って来たので，まるで「にわとりの足の皮

をはぐように手ぎわよく」彼女はスカートとペチコートと靴からひっぱり出されたのだった。そのあとで衣服は簡単にわだちからはずされ，ラケルは自分の幌馬車に隠れて衣服のしわをのばし，そして再びそれを身につけた。再び歩き始めたが，今度は，幌馬車から用心深く距離をおいて歩いた。毎日いろいろな場所に行ったが，家族の者達は特に夜の集りを楽しんだ。その時までは，すべての屋外作業をしていた人たちつまり，斥候，輸送，架橋，道路，干し草作業などをしていた全員が作業を終え，休息をとるためにキャンプに集合することができた。キャンプ・ファイアーの煙が，夕焼けのバラ色の雲に向って，影法師のように立ちのぼる時，牛の首につけられた鈴の音が，疲れた作業員達の到着を告げるのだった。多くの母や妻達が，彼らを迎えるために出て行った。そのあとで，子供達も彼らの膝に抱かれたり，そばに座ったりして，その日の出来事を語り合ったものだった。

「しかし，神の助けと恵みを求める祈りによって一日が始まると同じように，神への祈りによって一日は終るのだった。この祈りをせずに，休息の眠りにつこうとするモルモンは，ただの一人もいなかったと思う。一番星の輝きと共に，笑い声と大きな話し声は静まり，隣人は帰途につき，一日の最後の讃美歌が聞え，そして丘を流れる水のさらさらという音のように，何千という祈りの声が聞えて来るのであった」とトーマス　L．ケーンは記している。

目的地についた時に，姉妹達は，まだ自分にはこの大塩湖の原野の中に「家を建てる」という克服すべき大事業があることを知った。1847年10月6日にロッキー山脈の谷に到着した　M．イザベラ・ホーンは，自分達が遭遇した苦難について，次のように語っている。

「ホーン兄弟は私達夫婦と子供四人，それに，私達と一緒に来たロバート兄弟姉妹のために，小さな二つの部屋のある丸太の家を作った。私達がその家に引越した時には，ドアも窓も床さえもなかった」

彼女は，来る時に椅子だけしか持って来なかったので，どうやって家具を作ったかを話してくれた。丸太に穴を開けてその中に棒を水平にさしこみ，その端を床に立っている柱で支え，ロープか生皮をその棒に十文字に渡してベッドを作り，押入れは，丸太の壁にもっと細い棒を二本さしこんで，その一番上に荷造り用の箱をのせて作った。ほこりを防ぐために，前にキャラコのカーテンをかけた。材木が見つかるまで，足台が椅子として使われ，箱はテーブルとして利用された。

1848年3月に，10日も続いたひどい嵐のために芝土をしいて作られた屋根は，びしょびしょになり，雨もりがして来た。ホーン兄弟は，水を外に流すために幌馬車のカバーを屋根とベッドの足の上に鋲でとめたので，彼らは眠ることができたのだった。箱のテーブルの上には油布を広げた。料理や家事をする時には，外套をきたりかさをさした。雨がやんだ後も，家の中はしばらく雨がもっていた。

それからへびとねずみの襲来である。へびはすぐおどかして追い払うか，殺してしまったが，ねずみはそう簡単にはゆかなかった。ねずみはトランクやベッドやコートの袖の中にさえひそんでいた。深いバケツに水をはりその上に丸く削った木をかけたわなを考案した。棒の中央は平らで端の方に獣脂を置いた。ねずみがその獣脂を取ろうとかけ上ると，木は一回転して，ねずみは水中に落ちた。

ヘイト姉妹が隣家に子猫をかしたところ，ねずみの数は非常に減少した。

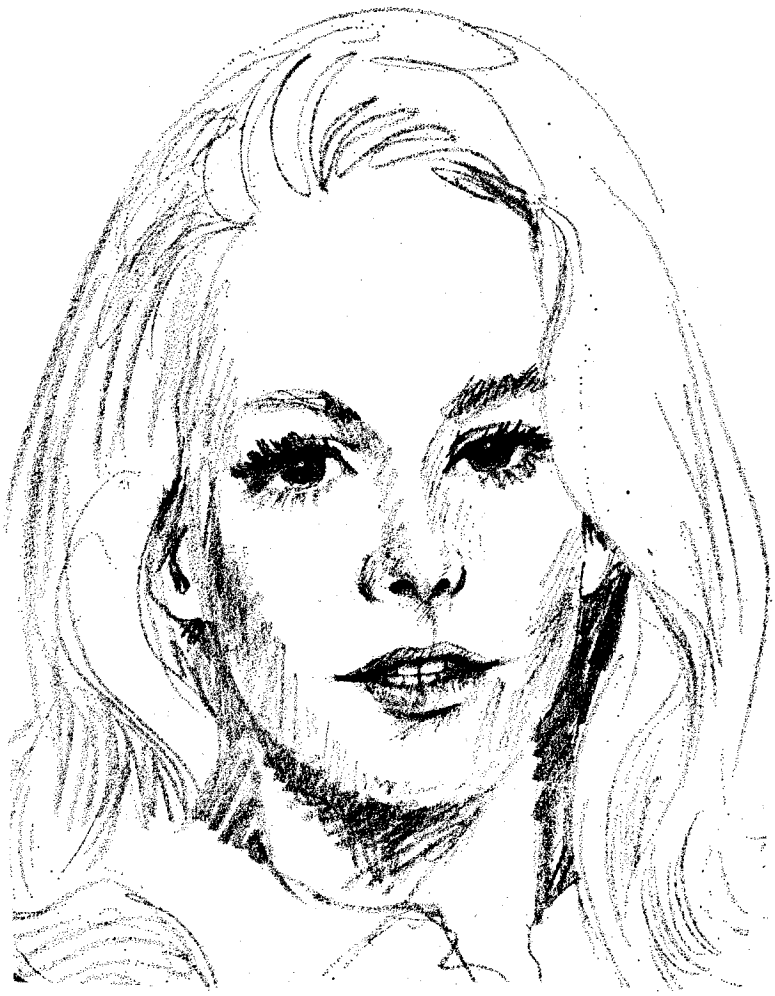
牛が働きつかれて弱ってしまったために，牛の肉は大変やせて固く，一日中ゆでていなければならなかった。野菜は，子供達が掘って来るわずかのセゴゆりとアメリカぼうふうのほかには何もなかった。セゴゆりは料理したての時は大変おいしいが，さめるとねばねばしてくるとイザベラは語っている。

レオノラ・テイラー姉妹は，この盆地に移住した人達の中で，ただ一人ふるいを持っていた。ある人に作ってもらったわくを持っていて，ふるい布を一枚一緒に持って来たのだった。白いビスケットを作りたいと思う姉妹は，だれでもそれを借りた。

姉妹達はさらにいろいろな方法で，お互いに助け合った。イザベラは，スキム・ミルクの中に赤鉛と油煙から作った黒絵の具を入れて，自分の家に色をぬったという人の話を聞いた。そこでイザベラは残っているその「ペンキ」を借りてぼろきれを使ってドアとわくをぬった。開拓者の母や妻達は，私たちに手本を示して，必要とする道具を作り出す才能を発揮した。木綿糸は魚網になった。粉まみれのラードがしみたぼろきれはよじって，家をてらす粗末なローソクになった。灰は石けんになった。トウナスとカボチャは，トウモロコシの茎の糖蜜を濃くするのに使われた。

最初の一年は娯楽も少なく，忙しい期間であった。しかし開拓者達は自由と幸福を感じていた。なぜなら，暴徒の恐れがなかったからである。彼らは庭に草木を植えた。その草木はよく成長し，花を咲かせて，粗野な環境を明るいものとした。最初の果実の木が根づいた。そして二年を経て，社交的なダンスの集いやそのほかの活動の時間ができる程，仕事はゆっくりしたものとなった。

ノーブーからの旅は，長く苦しいものであった。しかし，今やその犠牲をはるかに越えた報酬が与えられたのである。家庭はしっかりと築かれ，庭は冬にそなえてたくわえる産物を豊かに実らせた。愛する友人達を訪問する自由な時間もあった。開拓者の女性達は再び，周囲にいる人達のために，家庭の管理や生活を美しく，幸福なものにするといった快い日課に腰を落付かせた。その旅は，奉仕，信仰，愛，強さにおいて姉妹達の成長を助けた。これらの特質は，地上に神の王国を設立するために働く開拓者の女性達をずっと助けたのであった。



今日の教会における女性の地位

扶助協会中央管理会長
ベル S. スパッフォード

YWMIA創立百年祭という感謝すべき時にあたり，今日この組織の運命をになっている人々は，神聖な霊感を通してのみ，若い女性のためのこの組織を設立することができたのだという確固たる信念を持って，過去をふり返って見なければなりません。

そうすれば，過去から現在にいたるまで，この組織をつかさどってきた，偉大な女性の指導者達に対する深い感謝の念を覚えずにはいられないでしょう。そしてまた，この組織のためにいつも指示を与えてくれる霊感された神権の働きを感謝の心をもって承認し，またこの組織が果たした業績に対しての喜びと満足で，心が燃えるのを感じることでしょう。

過去一世紀を通して，YWMIAは何十万という若い女性達の生活に影響を与えて，彼女達の前に教会の理念をかかげ思考を正し，模範的な行動をとらせ，彼女達が自分の行為に責任をもつように訓練してきました。YWMIAは彼女達の人格を発展させ，才能を伸ばし，良い指導のもとに訓練する機会を与えております。YWMIAはまた，多くのさまざまな社交的な経験を与えています。自分の才能に適した活動が行なわれていないからといって，外側から眺めている必要はないのです。YWMIAは，教会幹部によって明確にされているように，教会の若い姉妹達が思いと行ないにおいて完成されるように力強い影響を与え，そして福音に対する強い証が得られるように，彼女達を助ける組織なのです。その証は／／教会の願いと求めに応えたいという気持を造り出すものです。ヒーバー　J．グラント大管長は，YWMIAに対して感動的な約束を与えておられます。

「あなたが，若い姉妹達に神への愛を，家庭への愛を，イエス・キリストの福音に対する愛を，そして天父なる神を喜ばせるものは何かと求める気持を起こさせる時，あなたは能力，強さ，そして神への信仰において成長する」（「福音の標準」英文P．151）

この約束は真に成就されたのであります。

教会の若い姉妹達が，YWMIAの活動を通して，個人として恩恵を受けているばかりではなく，この偉大な組織の活動によって，教会自身も計り知れない力を生じているのであります。

成人女性のために設立された扶助協会は，YWMIAの恩恵を受けていることを，感謝の気持をもって認めています。人生の自然な過程に従って，若い時代から成熟した年代へと自分の興味と活動が移行する時，女性は自分の移りゆく関心と必要を満たしてくれる道を自然に求めるようになります。YWMIAによって訓練された多くの姉妹達が，意志と献身をもって扶助協会の計画に移って行くのは当然のことです。彼女達は，堅実な人格と，みがかれた才能と，熟練した指導力と，教会に対する献身をもって扶助協会にやってきます。それらは，神権と対になる組織として割り当てられた責任を果たすのに大きな力となります。

末日聖徒の姉妹達には，教会の仕事において重大な役割があります。姉妹達はその天性に従って全力を傾け，神権の権威に従ってこの地上に神の国を建設することを求められているのです。

モルモンの姉妹達は，活発に教会活動に参加しています。人を改宗させる宣教師として奉仕します。息子，娘達にも同じように行動するよう霊感を与えます。例をあげればきりがありませんが，たとえば，経済的に必要な援助をし，教会の補助組織の中で奉仕します。教会の名において，莫大な時間を奉仕に捧げ，他の福祉計画で誠実に働きます。彼女は系図の探求と，神殿においてなされる死者のための様々な儀式に自分を捧げているのであります。

ヒーバー　J．グラント大管長は，女性に対する賞賛の言葉を次のようにのべています。

「女性達のすばらしい働きがなければ，教会は発展しなかったであろうと私は思う」（「福音の標準」英文P 150）

教会の歴史の初めから，姉妹達は教会の仕事に発言権を与えられて来ました。姉妹達は男性と同じように，すべての問題に関して教会員の支持を取る時には，自分達の意見を表示して来ました。このことに対する主のみこころは，教会が組織された三ケ月後の1830年6月に，ペンシルバニアのハーモ

ニーで，予言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリ，そして，ジョン・ホイットマーに与えられた啓示の中で明らかにされてあります。主は言われました。「すべてのことは……各教会各々の全体一致によりてなされざるべからず」（教義と聖約 26：2）

この承認は，女性が参政権を持っていなかった1830年代においては，まったく進歩的なものでありました。

予言者に近づけ，組織を作るようにノーブーの姉妹達を導いたのは，女性が教会のために働きたいという願いだったのです。彼女達は個人として熱心に奉仕しました。しかしこのようなやり方には，非常に大きな限界があることを感じました。エライザ R. スノーが，一つの組織に対する姉妹達の要望を予言者の前に説明した時に，予言者から次のような意味深い言葉が彼女達に与えられて，彼女達は慰められたのでした。「姉妹達の提案は主によって認められたと伝えて下さい。神権を組織し，その後で，神権のもとにその組織を作りましょう」

教会の成長と発展に伴って，姉妹の貢献は，ノーブーの姉妹達の何千倍に増えました。末日聖徒の姉妹達が，単独でいる女性達のだれよりも多くの祝福を今日受けていることを考える時，私達は今日の姉妹達の貢献が主によって受け入れられたのを感じないでしょうか。

教会の教義は，人類に対する神の救いの計画の中で，威厳と尊敬と責任のある地位を女性に与えております。福音には神の王国への救いと昇栄は，男女をとわず，全世界の心の正直な人間全てのためのものであり，主によって制定された律法と儀式に対する個人の忠実さに基いて，祝福が与えられるということを教えられています。

神権が教会の男性に対してのみ与えられているとは言え，その恩恵と祝福は，家族の一員である妻や子供達にも分け与えられるのであります。ジョン A. ウィッツオー長老は，次のように語っておられます。

「神権の儀式において，男性と女性の差別はなく，神殿の扉は教会の信仰深い全会員のために開かれている。そしてその中で行なわれる最もすばらしい祝福は，男性と女性の両者に共同で与えられることに注目すべきである。

いずれも単独では，その祝福を受けることはできない。キリスト教会においては，女性は男性の従属物ではなくて，同等の権利を持ったパートナーなのである」(扶助協会誌1943年6，7月号 英文 P. 373)

ブルース R. マッコンキー長老は，教義と聖約131章1—4節に述べられている教義について，次のような重要な声明をされています。

「男性は単独で，この世においては全き喜びを，来世においては永遠の生命を得ることはできない。すべての事柄が成就する時，彼と共に共同の相続人である女性が彼の傍にいなければならない。昇栄と永遠の繁栄は男性のものであると同様に女性のものでもある」（モルモンの教義 英文 P. 844）

教会の偉大な教義の中にあって，家族のきずなが永遠であるという教義ほど，女性を高め，慰めを与えてくれるものは多分ないと思われます。J. ルーベン・クラーク，Jr副管長の言葉によれば，末日聖徒の家族には，家庭内において，達成しなければならない三つの大きな目的があるのです。

「第一に，家庭は家族の者に，永遠にわたって天の父母と住む，天の家庭に再び返るような生活をもたらすものでなければならない。

第二に，我々がかつて住み，再び返るべき天の家庭と同じ力と機会と威厳のある神聖な家庭を，来世において建設する力を与えるために，家庭はその義務と権利と目的を遂行しなければならない。

第三に，家族は，肉体の幕屋を受けてこの地上に生れることを待ち望んでいる心身共に健全な霊達を受け入れる準備をして生活しなければならない。なぜならば，この地上に来る霊達は選ばれた霊達であり，彼らはその生活によって，第一の位を受けた霊達である。

さらに，この地上で大きな価値と約束と機会を持っている正しい家庭に，第二の位を受けてやって来る霊達なのである。

そしてこれらの家族は，正義の最も厳しい要求に答えうる環境をもつ自分の家庭に，この霊を招く用意をしなければならない。」（扶助協会誌，1940年12月号，P. 808）

私達が末日聖徒の家族について熟考する時，その組織の秩序正しさに感動するのであります。グラント大管長は私達に次のように語っておられます。

「主の宮において，今も永遠にも生活を共にするその初めの時に与えられる祝福と約束は，他の方法では決して得られないものであり，これから一緒に生活を始める末日聖徒の価値ある男女は，永遠の契約のもとに永遠の協力を見出し，現世でも来世でも，平和と幸福と徳行と愛と，そして人生の永久不変の真理の上に，彼らの生活の土台を築くのである。」（エラ誌，1936年4月，P. 199）

男性は，神のみ心によって，頭であり，管理者であり，家族の大黒柱なのであります。女性は彼の伴侶であり，協力者であり，子供を生み，養育する人なのです。この役割の中に女性は自分の神聖な使命を見出すばかりでなく，最も偉大な人生を見出すのです。

神によって制定された，家族の構成，維持，保護の分業は両親の重要性を他のものより低めることはなく，各々の役割を尊重する時に，家族の繁栄の基礎は確固たるものとなるのです。

神の御意志によって明確にされた教会における女性の地位は，時に応じて変ることがなく，永久不変なものです。昨日も今日も同じであり，明日もまた同じなのです。女性が神のみ心の通りに自分の立場と目的を理解する時に，非常に豊かな，すばらしい人生が約束され，偉大な永遠の報酬が与えられるのです。

この知識を持つ教会の女性達は，今世界の女性達の誰にもまして豊かな祝福を受けているのです。

管理監督

ジョン H. バンデンバーグ

人の名前が意味するもの

ある賢い父親が，息子が軍務に服するにあたって，次のように忠告しました。

「息子よ，お前は家を離れたら，一人立ちしなければならないことを知るだろう。また，何事も自分で決めなければならなくなるだろう。いいかい，お前は，私の名前をになって行くことになるんだよ。私は人生において，いつも名前を汚さないようまた名前に恥じないようにふるまおうと努力してきた。私は，お前にも同様のことを期待しているよ。」

聖典には，古代においてもう一人の賢い父親が与えた，同じような忠告が記録されています。ニーファイ人の偉大な大判事の一人であったヒラマンは，二人の息子に，先祖のリーハイとニーファイにちなんで，名前を付けました。この二人の息子が，伝道に献身しようとした時に「父ヒラマンが，自分らに話した言葉を思い出したが，父は二人に，『私の子らよ。私はお前たちが忘れずに神の命令を守りこれを民に伝えることを望む。私はエルサレムの地からきた先祖の名をお前らに与えた。このわけはお前らが自分の名前を思うたびに先祖のことも思わせ先祖を思うたびに先祖の行ないもまた思わせ，先祖の行ないを思うたびにその行ないの善かったことが言伝えにも記録にものこっているのを知らせるためである。それであるから，わが子らよ。私はお前たちに，先祖について言い伝えられ書き伝えられたと同じことが，お前たちについても言い伝えられ書き伝えられるように善い事をしてもらいたい』」。（ヒラマン　5：5～7）

すべての若い男女は，誇りにすべき名前を持っています。私たちの名前は，人々の前に私たち自身を表わしています。それは，私たちが，どんな人間であるかを意味するようになります。清楚で，健全で，正しくあることを，人々に表わすことが私たちの務めです。

歴史を通じて，名前は常に特別の意味を持ってきました。ローマ帝国時代の初期には，若者は，成年の礼服，つまり一人前の男としての服飾を身に付けるまでは，名前は与えられませんでした。これらの名前には，特別の意味があり，その若者の人格を示す名前がえらばれました。

聖典の中で主は，信仰深い人々の名前を変えて，彼らに偉大な働きをなすようチャレンジを与えておられます。たとえば，アブラムをアブラハム（多くの国民の父）に，ヤコブが後にイスラエル（神の王子）にかえられたのが，その例です。

自分の名前を誇りとするために，偉業をなし遂げて，世の人々の賞賛を浴びる必要はありません。むしろ，模範によって他の人々によい影響を与える生活をすることです。最後になってあなたの名前に名誉をもたらすものは，ちょっと見たところではさして重要には思えないものです。イエス・キリストの生涯は，当時の世間ずれした知識人には顧りみられもしない行為に満ちたものでした。デビド　O. マッケイ大管長は，言われました。「一般に人間が賞賛を浴びる世界にあって，イエス・キリストを成功者と見る歴史家を，どこで見い出すことができようか」。（「幸福な人生の秘訣」英文 P. 99）

私たちに立派な名前を与えてくれた人々を敬うというように，小さな好意を行動に現わすことによって，私たちの名前に誉れをもたらすことができます。ある人々は，時々両親を敬う機会を見すごしています。若い人々の中に，友人や仲間には快活であるのに，家庭では気まぐれで幼稚な振舞をし，両親に尊敬の念をもたない人がいます。家庭の中で，明かるく快活であり，両親や，家族を敬う時，それは私たちが人間として成長したしるしです。家庭の中で明かるく親切な行動をすることによって，私たちの人生と最も深い結びつきを持った人々，つまり両親や家族の間で，私たちは自分の名前に誉れをもたらすことができます。

私たちは，汚れたものから名前を守らなければなりません。けがらわしい話や，不作法，高慢，不健全な行為で，名前を汚すべきではありません。私たちの名前は，私たちがどんな人間かを表わすレッテルになります。ちょうど，ユダ，イゼベル，ヒットラーという名前が悪魔の別名であり，イエス，モーセ，リンカーンという名前が正義と偉大さに結びついているように，私たちの名前も，私たちがどのような人間かを表わすようになります。名前は，単にその人が誰かを証明するだけではなく，どんな人間かをも表わしているのです。私たちの名前がどんな意味を持っているかということは，私たちにとって非常に大切なことです。

「先祖について言い伝えられ，書き伝えられたと同じことが，お前たちについても言い伝えられ，書き伝えられるように善い事をしてもらいたい」つまり「その行ないの善かったこと」とヒラマンが，その息子たちに話したように行なうことによって，私たちは，自分の名前を誇ることができるのです。

レッスンの準備

レックス D. パインガー

第２部

多くの有能な教師は，その成功を系統的な準備によるものであるとしています。「レッスンの準備」第１部では，レッスンを準備する時の手引きを提案しました。次のチェック・リストを見ると，その手引きに一致していることがわかると思います。

実際に準備する時に，チェック・リストを参照すると便利です。日曜学校のレッスンを準備する箇所では，チェックリストをはっきりと心に留めて下さい。レッスンの資料を読む前に，その計画に備えるために，早くチェック・リストを読んで下さい。リストの項目を新たに心に銘記することによ り，よりよい準備ができ，すばらしいレッスンを準備するのに必要な時間をかなり短縮することでしょう。

レッスンの後すぐに，またチェック・リストを参照して下さい。これは，記憶の新たなうちに，レッスンの評価をする助けになります。このような自己評価は，教え方を改善するためのすばらしい刺激となります。

レッスン計画のチェック・リスト

レッスンの前に

準備のときと，レッスンを行なう少し前に，次の質問に答えて下さい：

1．生徒がレッスンから得なければならない主題（福音の原則）を書き出したであろうか。　はい　いいえ

2．はっきりとして，理解しやすいレッスンの目的を書き出したであろうか。　はい　いいえ

3．次のことを準備したであろうか。

a．レッスンを教えるために自分自身を霊的に　はい　いいえ

b．このレッスンにふさわしい教材を　はい　いいえ

4．生徒に必要なことを考えたであろうか。

a．グループとして　はい　いいえ

b．個人的に　はい　いいえ

5．レッスンで教える福音の原則と，今日クラスに出席する生徒の生活との関連を，説明するように準備したであろうか。　はい　いいえ

6．レッスンで教える福音の原則を，生徒が話し合うように準備したであろうか。

a．生徒の間で　はい　いいえ

b．自分と共に　はい　いいえ

7．レッスンで教える福音の原則を，生徒が応用するように準備したであろう

か。

a．レッスン中に　はい　いいえ

b．レッスンの後で　はい　いいえ

8．計画に宿題が入っていたであろうか。　はい　いいえ

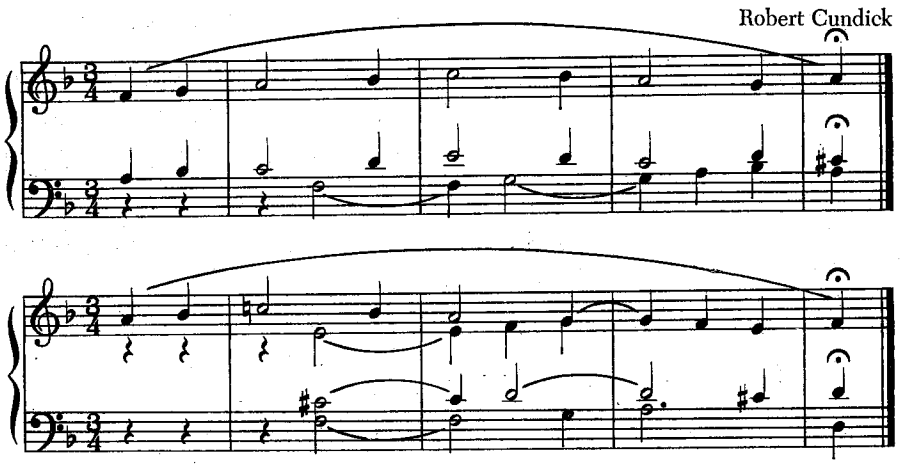
9．レッスンを効果的に教えるのに必要な教材をすべて整えていたであろうか　はい　いいえ

レッスンの後に

レッスンに対してよい評価を得るために，自ら尋ねて下さい：　はい　いいえ

1．レッスンを評価するために，チェック・リストを使ったであろうか。　はい　いいえ

2．クラスを訪問した役員とともに，自分のレッスンを評価したであろうか。　はい　いいえ

今月の前奏曲

9月サクラメント・ジェム

大人日曜学校

人はパンだけで生きるものではなく，神の口から出る一つ一つの言で生きるものである。

（マタイ　4：4）

子供日曜学校

善はみな神から出る。

（アルマ　5：40）

ＭＩＡへ行こう

ＭＩＡとは，少し大人になった若者達が全員で霊的経験やレクリエーションをする場所である。前回の総大会において発表された統計によると，男女それぞれ30万人以上の若人がこのＭＩＡの会員となっている。

ＹＷＭＩＡ創立100年を記念するため，次に述べるような決議がなされた。もちろんこの決議は，ＭＩＡが世界中の若人と同様に自分に及ぼす多大な影響をよく知っている人々により承認された。この決定は女性だけに適用されるものであるが，基本原則は男性にも適用される。

第39回ユタ州議会は，ＹＷＭＩＡが過去100年間そして現在若人に与えている建設的で価値ある貢献を称えた。以下にその決議文をあげる。

「100年前，すなわち1869年11月28日，ユタテリトリー(準州）知事であったブリガム・ヤングは，ライオンハウスの応接間に年長の娘達を集め，後にＹＷＭＩＡ（若い女性の相互発達協会）として知られるようになったリトレンチメント（質素倹約を重んじる）協会を組織させた。また同様に，悪いこと，価値のないことを節減し，良いこと，美しいことを行なうようにとの訓告を与えた。

そして，100年間この理想を追求してきたこの協会は，現在ではユタ州の全地方，合衆国の全州，また多くの国々で組織されている。

次にのべる昨年の統計に示されるように，ユタ州に住む多くの家族は，娘達が健全ですばらしい活動に参加することにより，強められて来た。また現在も強められているし，これからも強められるであろう。

ＭＩＡ主催ダンス・パーティー数6,000

ＭＩＡ主催演説祭，討論，読書により，自己をより明確に表現した女性の数 22,000

ユタ州で開かれたＹＷＭＩＡキャンプに参加し自然の価値

第二回 ユース・コンファレンス

（日本伝道部）

―― 開　会　式 ――

選手宣誓

―― ガーデン・パーティー ――

各支部味のコンテスト

―― 演　劇 ――

「王妃エステルの願い」の一場面

ＭＩＡを愛するエネルギッシュな兄弟姉妹の約一年間の準備のもとで，八月十四日東京体育館におき開会宣言とともにユース・コンファレンスの幕が開かれました。総勢500名のはつらつとした兄弟姉妹は「友情」のテーマの下に団結し胸をはり，足どり軽く行進する顔にこれから未来のモルモルを背おう姿が写しだされました。ガーデン・パーティーで各支部の味を楽しみながらタレントショウに目をみはりました。コーラス・スピーチコンテスト場内は高まり聖劇により信仰の尊さを学びました。三日目600名の参加者で会場がせまく感ずるほどの盛大なダンス・パーティーの後，各部門での表彰が行われました。最後の七時間の証詞会は涙を流す兄弟姉妹の証，またビルス伝道部長の感動的な話により私達皆福音のすばらしさ，ユース・コンファレンスの持つ意味を理解し幕をとじました。

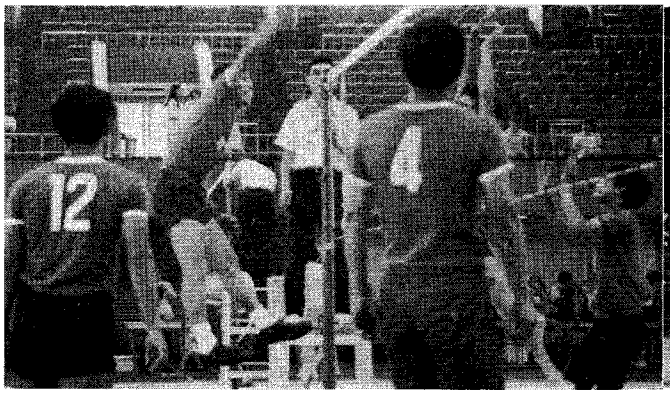
兄弟姉妹達は出口に立つビルス伝道部長夫妻と一人一人握手をし家庭の待つ，兄弟姉妹の待つ支部へ感激を胸にかえっていきました。

またこの大会には日本沖縄伝道部の神崎良太郎副伝道部長が訪問されたことを心から感謝します。

―― コーラス・コンテスト ――

群馬支部の熱演

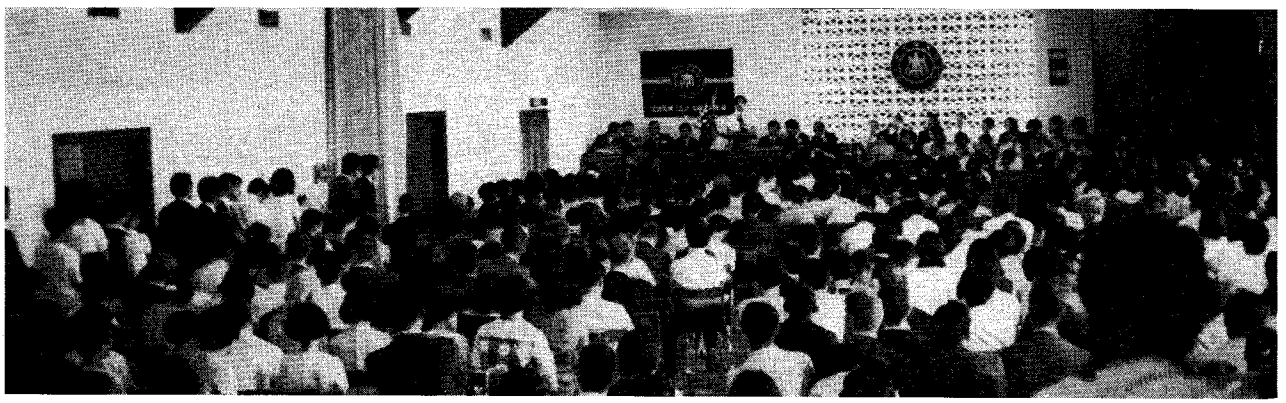
—— バレーボール ——



熱戦をくりひろげるバレーボール

歓声をあげて応援する兄弟姉妹

—— 証　　会 ——



記念すべき証会

いつまでも　たえることなく
友達でいよう
あすの日を夢みて
希望の道を

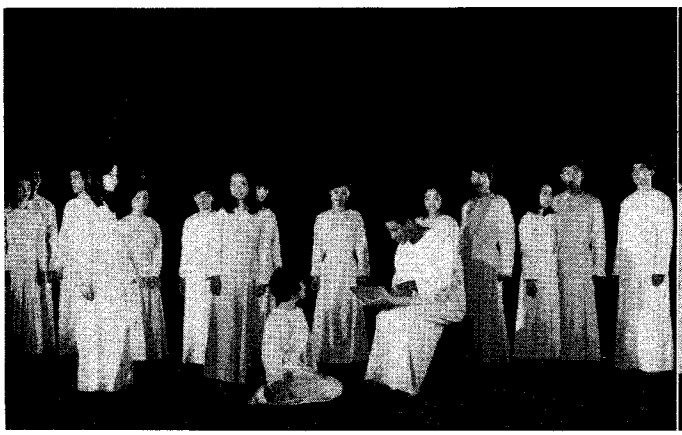
空をとぶ鳥のように
自由に生きる
今日の日はさようなら
またあう日まで

信じあう喜びを　大切にしよう
今日の日はさようなら
またあう日まで　またあう日まで

と共に口ずさみながら
わかれをつげた

兄弟姉妹一人一人と握手するビルス伝道部長夫妻

“幸福を探し求めて”



☆ 撮影終った“幸福を探し求めて”

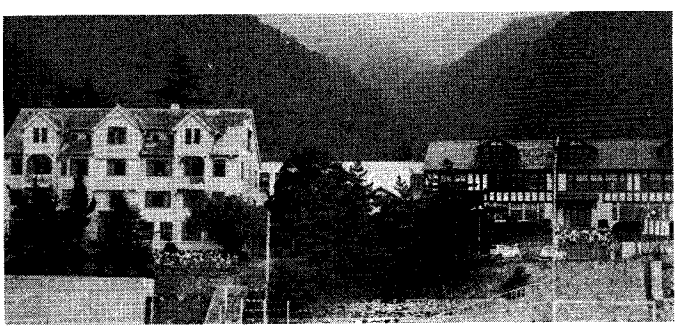
万国博覧会，モルモン館で上映される映画“幸福を探し求めて”が今まで製作されていたが8月6日にでき上りました。

英語版のおなじみのものを日本語にふき変えるのではなく，日本の映画として日本人の俳優を使って製作されたもので，近畿地方部の兄弟姉妹が特別出演し，楽しい素晴しい作品ができ上りました。幸福を求めて来られる人々に必ずや心をうつものがあると期待されています。兄弟姉妹達，でき上りを楽しみにお待ち下さい。

＜上の写真はその一カット，左はスタッフで中央はウエタカ総監督右はジョンソン美術監督，左はスタム撮影監督＞

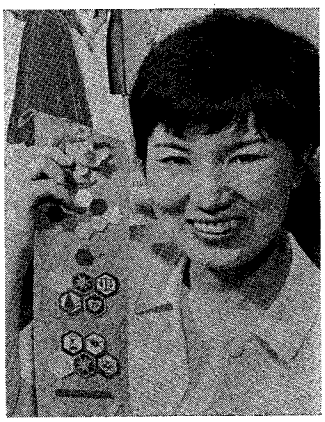
☆ ユース・コンファレンス開かる

日本沖縄伝道部の楽しいユース・コンファレンスが神戸，六甲山中腹のカナディアン・アカデミーで8月7日から3泊4日間の日程で開催され，遠く沖縄からも若さあふれる兄弟姉妹が多数参加され，若人の祭典の幕が切って落されました。記事は来月号に総特集として掲載します。ご期待下さい。



日本沖縄伝道部のページ

☆ 盛大だったジューン•コンファレンス



早瀬久実子姉妹

今年のはじめに岡崎伝道部長が，今年はYWMIAの百年祭だから，ジューン・コンファレンス（6月大会）に日本沖縄伝道部から何か記念のプレゼントをしましょうという提案があって以来，何度か岡崎姉妹を通して中央管理会と通信するうちにジャコブセン会長からこの贈り物をジューン・コンファレンスの特別プログラムにしたいというお手紙をいただきました。

それから皆様も一針づつ手伝って下さいましたように長い間かかってあの刺繍を完成しましたね。中央管理会の皆さん，すごく楽しみにしておられたようでソートレークについてすぐ，MIA事務局を訪問しますと，玄関の扉の所からもう歓迎ぜめで，会う人ごとに日本人の私をみて「あなたはエディーとチエコ（岡崎伝道部長夫妻）のところから来た早瀬姉妹ではありませんか」といってかけよって来てキッスの雨を受けました。またジャコブセン姉妹は目をうるませて『あなたの来るのを待っていました』といって下さいました。彼女はとてもエレガントで親切な方で，私が色々なプログラムに出る時，さびしかったりこまったりしないように色々な人に頼んでいて下さいました。彼女に会えたことは大きな喜びです。またここで日本で受け取りそこねたゴールデングリーナー賞をジャコブセン姉妹から直々にいただき，またまた感激でした。

3日後の特別プログラムで私達の刺繍の額の贈呈がありました。広い広いタバナクル食堂で日本から持って行った着物を着て，前をむくと目がくらくらするようなたくさんの人々が，後にはYWタバナクル聖歌隊，もう本当に足はガヨガタ胸はドキドキでした。でも無事にジャコブセン姉妹に渡すことができました。そして千人針に縫い込まれた日本沖縄伝道部のみんなの本当の気持を伝えました。彼女は大変お喜びになって会場のみんなにお見せになり集会が終るまで説教台の前に掲げて下さいました。あらためて皆様のご協力に感謝しています。

さてジューン・コンファレンスの模様についてちょっとふれてみましょう。全ワード部・ステーキ部からまた遠くはイギリスからも出席者があり，想像できないくらいたくさんの人々でした。プログラムのスケールの大きさとレベルの高さはさながら組織の持つ大きな力とそれを支える指導者の方々の働きに，ただただ驚くばかりでした。例をとればダンスフェスティバルなど。六千人余の人々が絵のように一度に踊り，よくもこれだけの人数の人々がこのようにまとまったものだと思わせるような素晴しいものでした。けれどその裏にあった指導者たちの働きを考えると胸がいっぱいになりました。またロードショーやキャンピングプログラムを勉強してくることも私の課題の一つでした。今まで本でしか見なかったものを自分の目で確かめました。ロードショーは日本で従来行っていたものと全く異質のものでしたし，思っていたよりも随分手のこんだ長期間の準備を要するプログラムです。アメリカではMIA行事の中では最も楽しい大きいプログラムとされています。当伝道部でも来年からプログラムにとり入れられています。

また来年から実施するはずのもう一つのプログラムがあります。それはYWキャンプです。私はこれに参加して，このプログラムが本当に少女達に必要なプログラムであり，証を育てる霊的な役目と共に看護術，天体の勉強，地図磁石の勉強，自然を利用した工芸品の勉強などを含む，素晴しいプログラムであることがわかりました。私はこのキャンプに参加して是非，日本の少女達にもこのような機会をつくってあげたいと強く思いました。
岡崎姉妹と力を合せて，はじめる予定です。ご期待下さい。

私はこのジューン・コンファレンスに参加して，MIAが神様が私達に備えて下さったプログラムであり私達はこれを誠心誠意で行なわなければならないと強く感じました。岡崎伝道部長がいつもいわれますように“日本人だからこそできます”。日本にも近い将来このような日が来ることを確信しています。　　早瀬久実子

☆ “千人針” 花刺繍をありがとう

ジャコブセン姉妹

ソートレークにあるYWMIA中央管理会の会長であるジャコブセン姉妹から“千人針”花刺繍の贈り物に対して伝道本部にお礼の手紙が届きました。<以下が内容>

私達にお送り下さった素適な“千人針”の贈り物は言葉では言い尽せないくらい，私達にとって大きな喜びです。これはすべて，日本沖縄伝道部内の方々の美しい心のあらわれだと感じています。また私達はお贈り下さったこの美しい贈物と愛の気持と支持と感謝の気持をいつまでも心に留めていたいと思っています。私達はこのジューン・コンファレンスに早瀬姉妹がいらっしゃることを心待にしていました。また彼女がいらっしゃったことは私達のすべてにとって非常に感激的なことでした。

どうか伝道部内の皆さまの上にいつまでも主の特別な祝福がありますように祈ります。　　フローレンス　S．ジャコブセン姉妹

昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九六九年九月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十三巻第九号

調子の波にのせる

リチャード・L・エバンズ

「人生はドタバタところげまわる物体のようなものである」とベンジャミン・デズレイリは述べた。「しかもいろいろな目的をもって，せかせかと」とマシュー・アーノルドはその文に補足している。私達には時として，負債，いろいろな義務，なさねばならない多くの事，心配事，問題，そして自他の悲しみなど，余りにも多くの負担が心にかかってくることがある。あちらへもこちらへも行かねばならない。あれもこれもしなければならない。そして同時にいろいろなことを心配しなければならない。一度に余りにも多方面に手を伸ばし過ぎ，何事も完成できず，処理できないでいる。そしてただいたずらに書類をめくり，問題をいじくりまわしている。こうした悩みに対処するために，ある人は「一時に一事」するようにと提案している。「遠くから見た山はけわしくて登れないように見える。しかし実際は登れる。その方法はまず山に向かって一歩踏み出すことである。その瞬間から山は次第に低くなる。遠くからは非常にけわしく見える坂も，我々が近付くに従って傾斜がゆるやかに見えてくる」とその人が語っている。人生におけるいかなる仕事もこのように「一時に一事」なす態度で臨めば簡単であろう。まず第一歩，仕事に着手する。そしてそれを調子の波にのせる。こうすることによって仕事の進行と，問題の解決は容易であるとの確信が得られる。「二兎を追う者は一兎をも得ず」という諺のように，人だれでも一度にいろいろなことを十分にできないものである。私達は一番重要なもの，可能なものを選ばなければならない。そして現在の自己の立つ立場と持っているものとをもって始めなければならない。一旦着手し，調子の波にのせれば，心の負担，心配，疑い，憂うつは軽くなり消えて行くことであろう。

私達は一時にすべてのことをできないが，しかし今何かすることはできる。そしてそれをすることによって心の負担を軽くし，心配を消すことができるのである。プラトンの言葉のように「始めが最も大切である」

聖徒の道
1969年９月20日発行
振替口座　東京７６２２６番
発行人兼編集人　ウォルターR.ビルス
発行所　東京都港区南麻布５－８－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話（442）7438
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　１００円
予　約　一年間1,000円（外国４ドル50セント）
電報受信略号「トウキョウ」マツジツ